

Computer Guide

コンピュータガイド

情報処理システムの使い方

2025
年度版



INDEX

COMPUTER GUIDE 2025

I 授業開始前にやっておくべき事前準備 10 ヶ条

1. ユーザ ID とパスワードについて	1
2. 「KSU-WiFi」の接続	3
3. 「多要素認証」の設定	17
4. 「POST」の利用	35
5. 「moodle」の利用	38
6. 「Microsoft365 Apps」の利用	40
7. 「Microsoft Teams」の利用	46
8. 「Office365 メール」の利用	52
9. 「OneDrive」の利用	59
10. 端末の充電	62

II 施設・設備

63

1. ロビープリンタの利用	63
2. 電源コンセントの利用	68
3. 拡張モニタの利用	69

III 情報センターサポート体制

71

1. 情報センターカウンター窓口「MiCS」	71
2. Web サイト「コンピュータ環境の使い方」	72

IV 教材・コンテンツ制作室

73

1. 概要・利用時間	73
2. 利用できるアプリケーション	74
3. 利用できるハードウェア・機器	75
4. 有料サービス	76

V その他

77

1. 京都産業大学インターネット利用に関するガイドライン	77
------------------------------	----

I. 授業開始前にやっておくべき事前準備 10 ヶ条

I ユーザ ID とパスワードについて

本学の情報処理環境を使用するには「ユーザ ID」と「パスワード」が不可欠です。この章で「ユーザ ID」と「パスワード」について理解してください。

(1) ユーザ ID について

本学では、入学した学生全員にユーザ ID を発行しています。

<学部生>

g2〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇 は学生証番号（数字 6 衔）

ユーザ ID は、学生証番号の先頭に「g2（ジー、ニ）」をつけたものになります。

※学部生で学生証番号が「123456」の場合、ユーザ ID は「g2123456」になります。

※「g」は半角・小文字で入力する必要があります。全角や大文字では認証されません。

<大学院生>

i2〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇 は学生証番号（数字 6 衔）

ユーザ ID は、学生証番号の先頭に「i2（アイ、ニ）」をつけたものになります。

※大学院生で学生証番号が「123456」の場合、ユーザ ID は「i2123456」になります。

※「i」は半角・小文字で入力する必要があります。全角や大文字では認証されません。

(2) メールアドレスについて

本学では、学生全員にメールアドレスを発行し、サービスを提供しています。本学で発行しているメールアドレスは、次のようなドメインになっています。

ユーザ ID@cc.kyoto-su.ac.jp

(3) パスワードについて

情報処理システム等を利用するには、「ユーザID」のほかに「パスワード」が必要になります。学生証等交付の際に配付する「ユーザID・パスワードおよび多要素認証について」に初期パスワードが記載されています。受講科目によっては最初の授業で必要になりますので、忘れないようにしてください。

<パスワードの変更について>

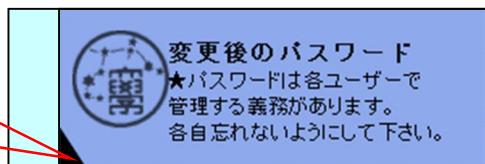
パスワードは「コンピュータ環境の使い方」の「パスワード等変更」から何度も変更することができます。他人に推測されにくいパスワードに変更し他人に知られないよう、かつ自分でも忘れてしまうことがないように管理してください。

<パスワードを忘れた場合（再発行）>

パスワードを忘れた場合は、10号館3階の情報センターカウンターでパスワード再発行の申請を行ってください。パスワード再発行の手続きが完了すると、下図のシールをお渡しします。このシールをめくって、再発行後のパスワードを確認してください。再発行後、上記の<パスワードの変更について>を参考にパスワード変更してください。

なお、パスワード再発行後は、以前使用していたパスワードでは使用できなくなりますので注意してください（学生証等交付の際に配布する「ユーザID・パスワードおよび多要素認証について」に記載されているパスワードも使用できなくなります）。また、Wi-Fiやブラウザに保存していたパスワードの更新が必要です。

シールをめくると
パスワードが記載されています



【注意】

パスワード再発行の申請には学生証が必要です。
学生証がない場合は再発行できません。

2 「KSU-WiFi」の接続

本学では校舎内全域（主に教室や研究室）に Wi-Fi サービスを提供しており、本学学生であれば誰でも利用することができます。

スマートフォンや自身のパソコンを Wi-Fi に接続して授業等で利用できるように準備してください。



(I) KSU-WiFi の利用に必要なもの

KSU-WiFi を利用するためには次のものが必要になります。

- ・ユーザ ID およびパスワード

利用者が本学の学生または教職員などであることを確認するために用います。

- ・パソコンまたはスマートフォンなどの Wi-Fi 対応機器

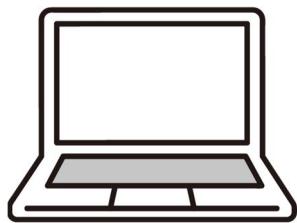
Wi-Fi 機能を持ち、かつ、本学の Wi-Fi 通信で必要となるセキュリティと暗号化の種類に対応した機器を用意してください。

■本学の Wi-Fi 環境

SSID	: KSU-WiFi
Wi-Fi 規格	: IEEE802.11n/ac/ax
セキュリティの種類	: WPA2-エンタープライズ
暗号化の種類	: AES
ネットワークの認証方法	: EAP-PEAP(MSCHAPv2)

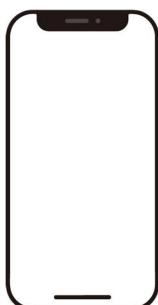
(2) KSU-WiFiへの接続手順

OS 別に手順を説明しますので、対応する箇所を読んでください。



Windows P4～

Mac P8～

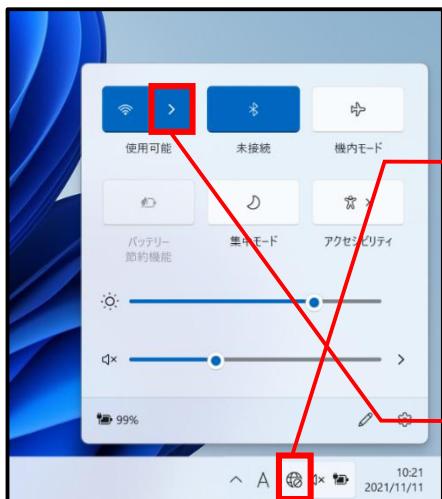


iPhone/iPad P11～

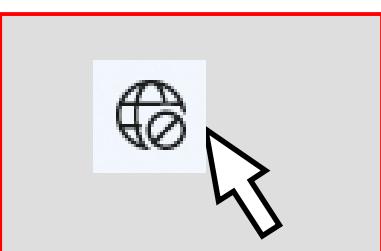
Android P14～

Windows

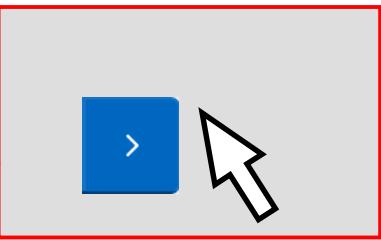
タスクバーの①【ネットワーク】アイコンをクリックし、Wi-Fi アイコン横の②【>】をクリックします。



①



②



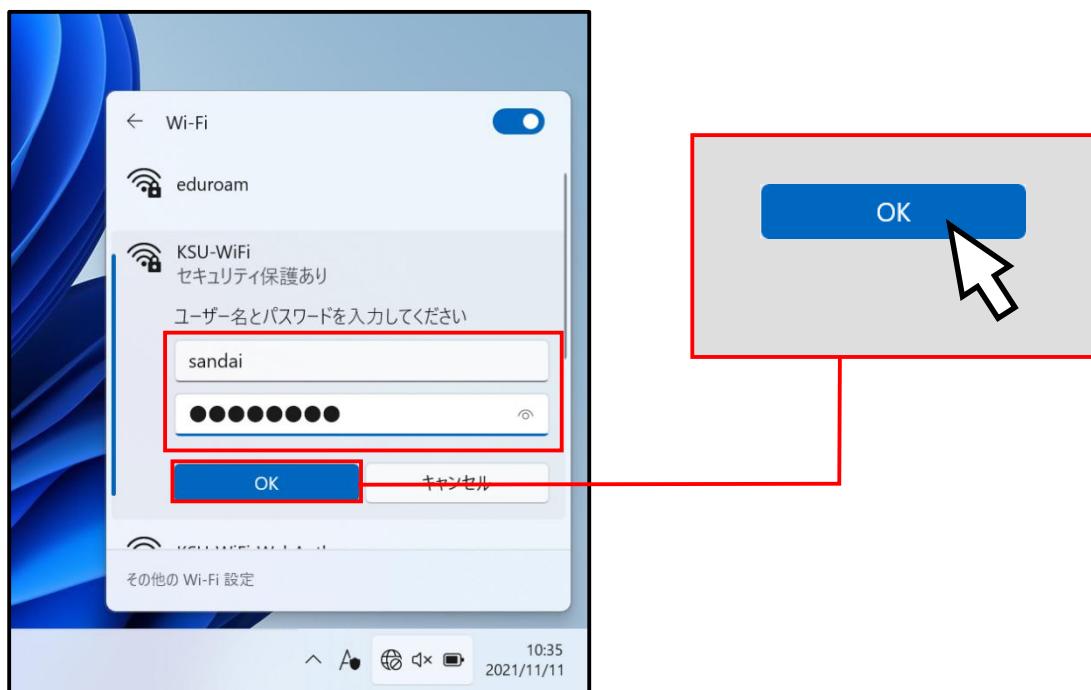
【KSU-WiFi】をクリックし、【自動的に接続】にチェックが入っていることを確認し、「接続」をクリックします。



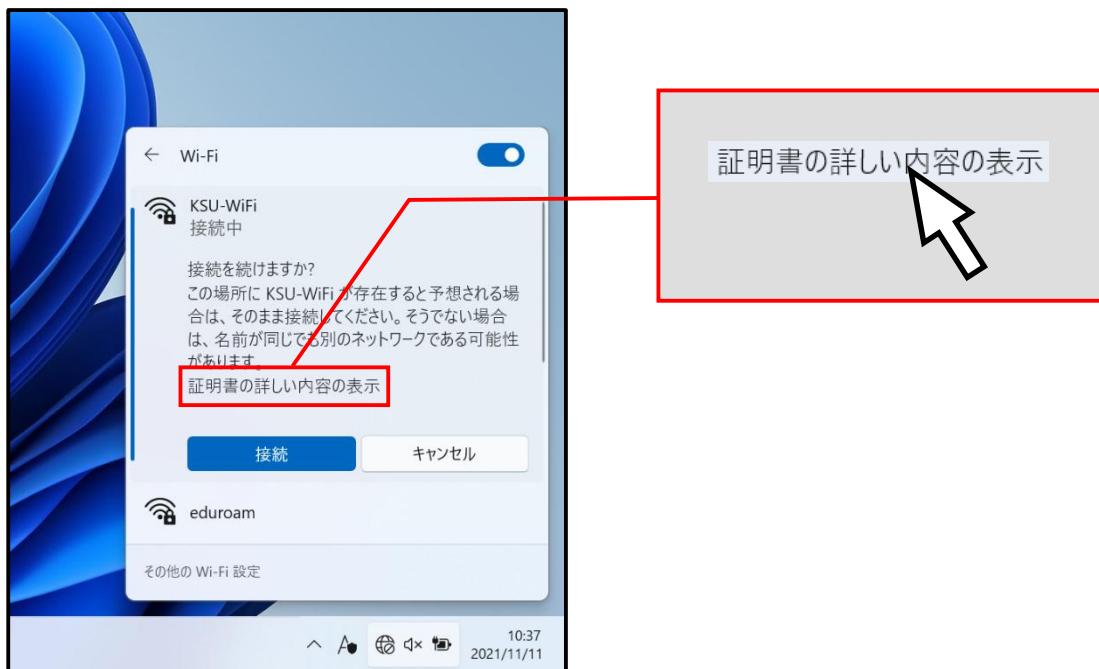
大学で発行している「ユーザ ID」と「パスワード」を入力し、「OK」をクリックします。

※ここでは例としてユーザ ID 「sandai」を使用して説明しています。

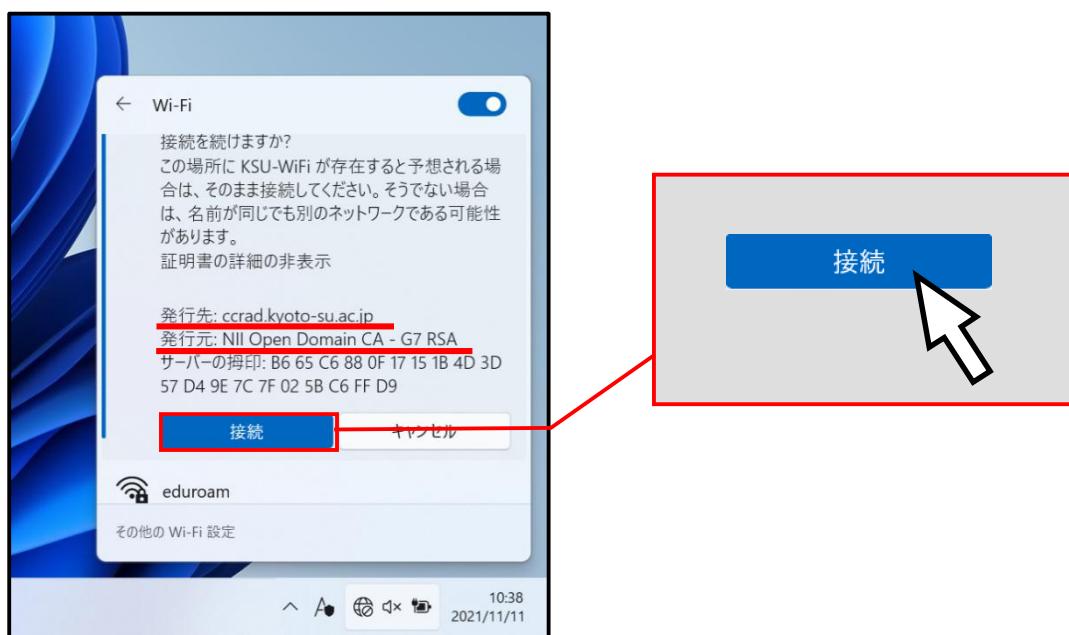
「ユーザ ID」と「パスワード」はご自身のものを入力してください。



「証明書の詳しい内容の表示」をクリックします。



発行先が「ccrad.kyoto-su.ac.jp」であること、発行元が「NII Open Domain CA - G7 RSA」であることを確認し、「接続」をクリックします。



「接続済み、セキュリティ保護あり」と表示されたら完了です。



以上の設定で次回から「KSU-WiFi」に自動的に接続が行われます。

Mac

画面右上にあるメニューバーの「コントロールセンター」をクリックし、
「Wi-Fi」をクリックします。



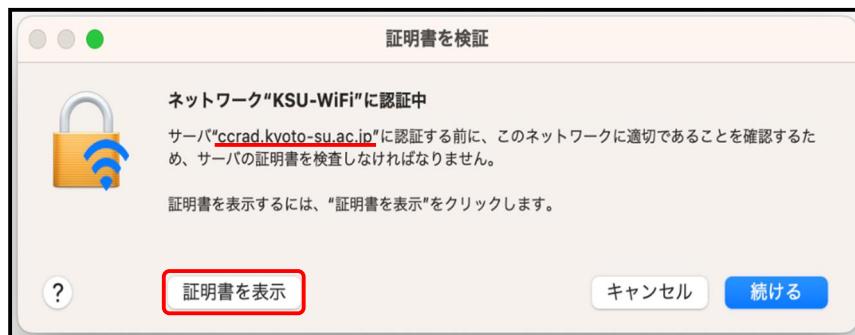
「KSU-WiFi」をクリックします。



大学で発行している「ユーザ ID」と「パスワード」を入力します。「この情報を記憶」にチェックが入っていることを確認し、「OK」をタップします。



サーバが「ccrad.kyoto-su.ac.jp」であることを確認し、「証明書を表示」をクリックします。



「”ccrad.kyoto-su.ac.jp”を常に信頼」にチェックが入っていること、発行元が「NII Open Domain CA - G7 RSA」であることを確認し、「続ける」をクリックします。



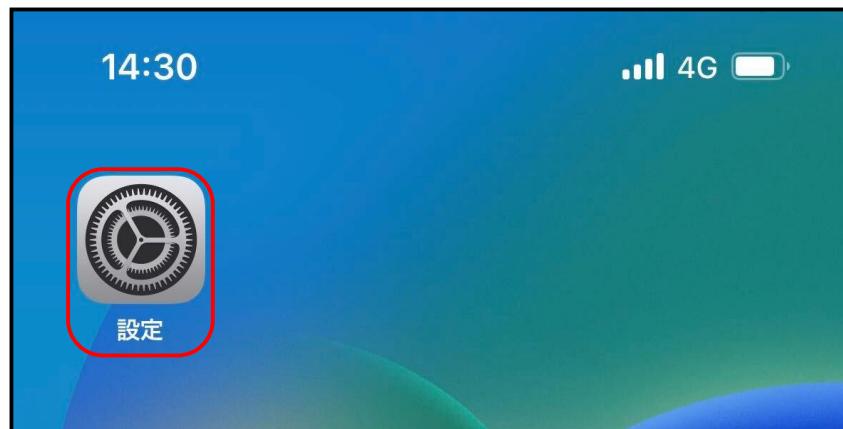
メニューバーの「コントロールセンター」をクリックし、「Wi-Fi」に「KSU-WiFi」と表示されたら完了です。



以上の設定で次回から自動的に「KSU-WiFi」に接続が行われます。

iPhone / iPad

「設定」をタップしてください。



「Wi-Fi」をタップしてください。



「Wi-Fi」の「スイッチ」をスライドして「ON」にし、表示された「KSU-WiFi」をタップします。



大学で発行している「ユーザ ID」と「パスワード」を入力し、「接続」をタップしてください。



赤枠線の箇所に「ccrad.kyoto-su.ac.jp 発行元：NII Open Domain CA - G7」と表示されていることを確認し、「信頼」をタップしてください。



以上の設定で「KSU-WiFi」に自動的に接続が行われます。

Android

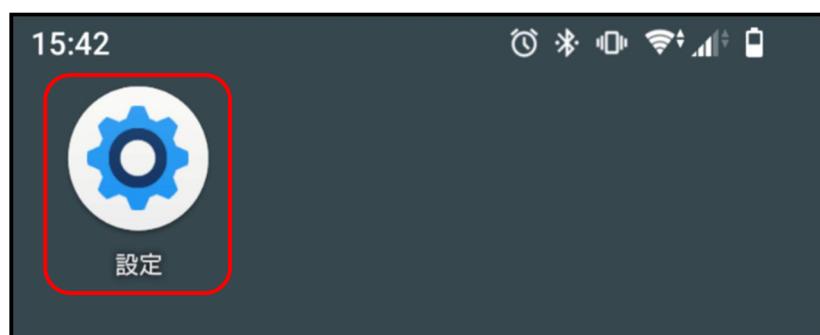
Android 端末の機種やバージョンによって、設定方法が異なる場合があります。
(CA 証明書選択欄にて「システム証明書を使用」が選択できない等)
その場合は、CA 証明書をインストールしていただき、KSU-WiFi に接続してください。詳しい手順については、本学 Web サイト「コンピュータ環境の使い方」にある「インターネットスポット接続手順【android】 - CA 証明書インストール編 -」を参照してください。

京都産業大学 - コンピュータ環境の使い方

「インターネットスポット接続手順【android】 - CA 証明書インストール編 -」

https://www.kyoto-su.ac.jp/ccinfo/pdf/ca_certificate_for_android.pdf

「設定」をタップしてください。



「ネットワークとインターネット」をタップしてください。



「インターネット」をタップしてください。



「Wi-Fi」をONにし、利用可能なSSID一覧から「KSU-WiFi」をタップしてください。



下記設定項目を参考に入力し、「接続」をタップしてください。



EAP方式	PEAP
フェーズ2認証	MSCHAPV2
CA証明書	システム証明書を使用
証明書のオンライン検証	検証しない
ドメイン	kyoto-su.ac.jp
ID	本学のユーザID(上記例ではsandai)
匿名ID	指定なし
パスワード	本学のパスワード

以上の設定で次回から自動的に「KSU-WiFi」に接続が行われます。

3 「多要素認証」の設定

多要素認証とは、「知識情報」「所持情報」「生体情報」の3つの認証要素の内、複数の認証要素を用いて利用者本人であることを証明する方法です。本学では、「ID/パスワード認証」と「ワンタイムパスワード認証」を組み合わせた認証方式と生体情報等を利用した「FIDO認証」方式を利用しています。

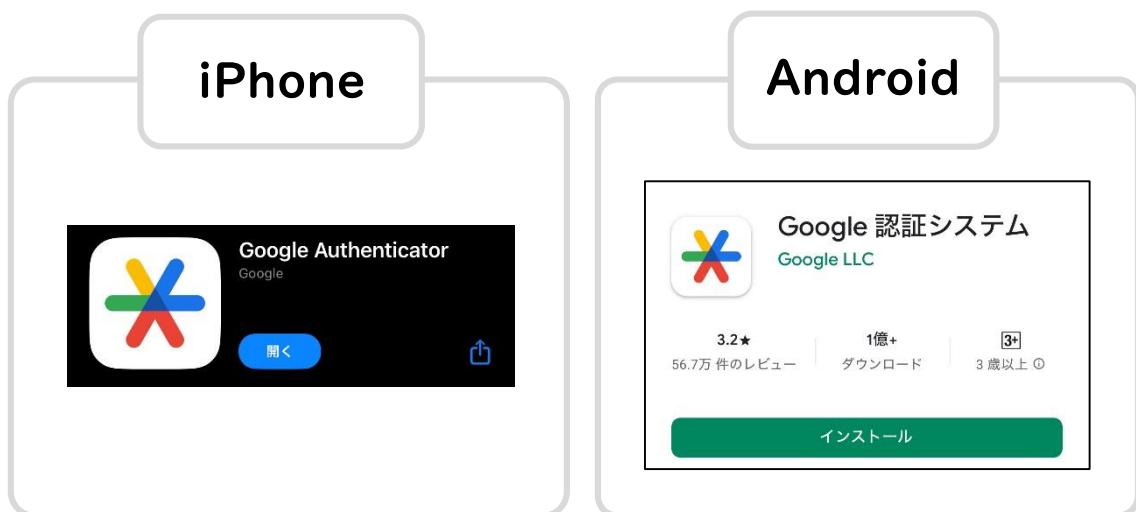
学外からの利用は必ず多要素認証の設定が必要です。授業で利用する情報処理システム等を安全に利用するために、多要素認証を必ず設定してください。令和7年5月14日(水)までに設定が完了していない場合、学外から情報処理システムが利用できなくなりますので、期日までに以下に案内している手順等を確認し設定をしてください。

(1) ワンタイムパスワード認証 設定マニュアル

「ワンタイムパスワード認証」とは、事前に端末にインストールしたアプリに表示される認証コードを用いて認証をする機能で、30秒ごとに切り替わる6桁の数字を入力して本人の認証を可能とする仕組みです。

ここでは、スマートフォンに設定する方法を説明いたします。

1. 設定する前に、「App Store」もしくは「Google play」から自身のスマートフォンにワンタイムパスワードアプリ（Google Authenticator）をインストールします。



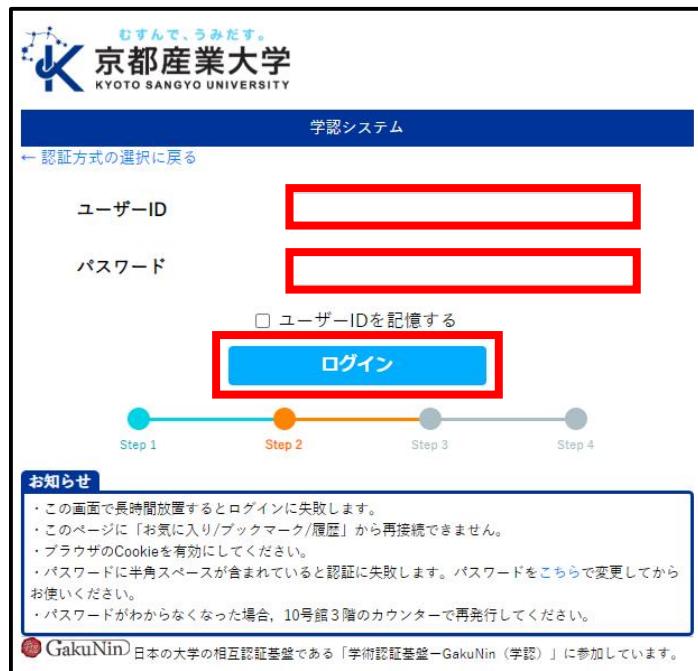
2. コンピュータ環境の使い方を開き、多要素認証の「設定」をクリックします。



3. 「ID/パスワード認証」を選び、「選択」をクリックします。



4. ユーザIDとパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。



京都産業大学 KYOTO SANJO UNIVERSITY

むすんで、うみだす。

学認システム

← 認証方式の選択に戻る

ユーザーID
パスワード

ユーザーIDを記憶する

ログイン

Step 1 Step 2 Step 3 Step 4

お知らせ

- この画面で長時間放置するとログインに失敗します。
- このページに「お気に入り/ブックマーク/履歴」から再接続できません。
- ブラウザのCookieを有効にしてください。
- パスワードに半角スペースが含まれていると認証に失敗します。パスワードをこちらで変更してからお使いください。
- パスワードがわからなくなったら、10号館3階のカウンターで再発行してください。

GakuNin 日本の大学の相互認証基盤である「学術認証基盤—GakuNin（学認）」に参加しています。

5. 「ワンタイムパスワードの設定」をクリックします。



6. ワンタイムパスワードの設定画面が表示されますので、「QRコードを読み込めない場合」をクリックします。



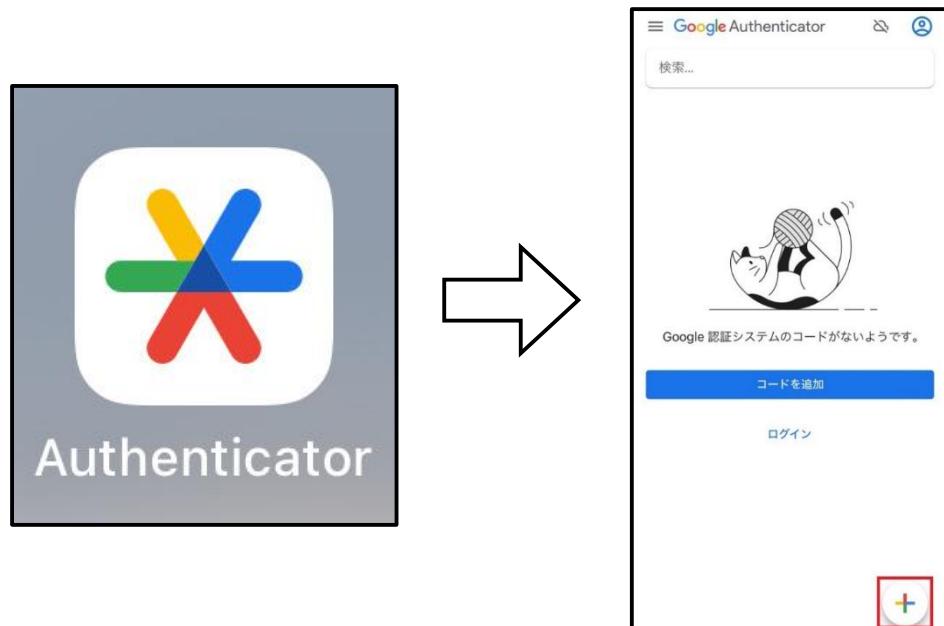
7. 表示されたシークレットキーをコピーし、このまま画面を消さずに次の手順に移ります。



【注意】

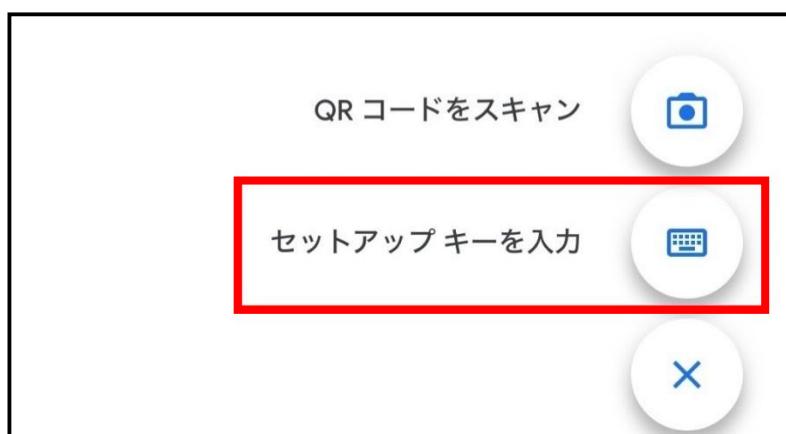
PC(Windows・Mac)にも設定する場合は、上記画面にて表示されるシークレットキーをパソコンのアプリケーションに入力する必要があります。設定完了後はシークレットキーを確認することができなくなりますので、次の画面に遷移する前にメモしておいてください。

8. 事前にインストールしたアプリを開き、画面右下の「+」をクリックします。



9. 「セットアップキーを入力」をクリックします。

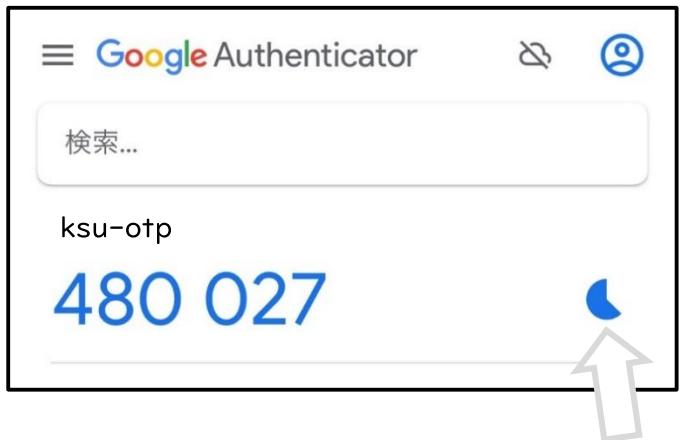
※セットアップキーは先ほどコピーした「シークレットキー」です。



10. 「アカウント」欄は自分が区別のつく名称を入力し、「鍵」欄に先ほどコピーしたシークレットキーを入力します。「時間ベース」を選択し「追加」をクリックします。



11. アカウントが登録され、6桁の数字（ワンタイムパスワード）が表示されます。



認証コードは
30秒ごとに更新されます

12. 先ほど消さずに置いていた設定サイトに戻り「次へ」をクリックします。

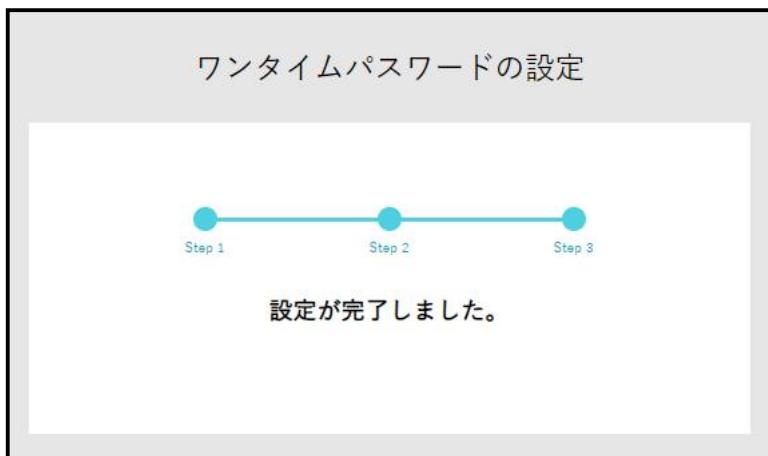


13. ワンタイムパスワードをリセット（初期化）する時に利用する「通知用メールアドレス」を入力し、「確認メール送信」ボタンをクリックして正しくメールが受信できるか確認してください。なお、「通知用メールアドレス」は@gmailなどのWebブラウザで確認できるメールアドレスを指定してください。大学の@ccメールはここで入力しないでください。

メールが確認できれば、先ほど登録したGoogle Authenticator等のアプリに表示されている「ワンタイムパスワード」を入力し、「登録」をクリックします。



これにて設定は完了です。



【ログイン方法】

学外ネットワークから本学の情報処理システム（POST・moodle 等）にアクセスする際、ワンタイムパスワードを選択した後以下の画面が表示されますので、スマートフォンのアプリを起動し、表示される6桁の認証コードを入力して「ログイン」をクリックします。

ご自身のユーザ ID

京都産業大学 KYOTO SANGYO UNIVERSITY

学認システム

← 認証方式の選択に戻る

ユーザーID

ワンタイムパスワード

このブラウザでは多要素認証を一定期間記憶する

ログイン

ワンタイムパスワードを設定および初期化する方はこちらへ

Step 1 Step 2 Step 3 Step 4

お知らせ

- Google Authenticator等のアプリに表示される6桁の数字を入力してください。
- 端末やアプリの時刻がずれいると、ログインすることができません。
- 以下に当てはまる場合は、多要素認証を設定もしくは設定を初期化する必要があります。
 - 一度も多要素認証を設定したことがない
 - 機種変更等で多要素認証の設定を新端末に引き継いでおらず「旧端末が手元にない」
- ワンタイムパスワードを設定および初期化する際は、こちらをクリックしてください。

GakuNin 日本の大学の相互認証基盤である「学術認証基盤—GakuNin（学認）」に参加しています。

≡ Google Authenticator

検索...

ksu-otp

480 027

これにて本学の情報処理システムにログインすることができます。

(2) FIDO 認証 設定マニュアル

「FIDO 認証」とは、端末に登録している FaceID や TouchID、PIN コード等の情報を用いて認証をする機能で、パスワードの入力をせずに本人の認証を可能とする仕組みです。FIDO 認証を使うことで、学内・学外を問わずパスワードレスにログインできるため、便利に利用することができます。

設定されたい方は、下のマニュアルを参考に設定してください。

【注意】 ※設定する前に必ず確認してください。

- ・FIDO 認証の設定を始める前に、ワンタイムパスワードの設定ができているか確認してください。まだ設定していない方は、必ず事前に設定してください。

- (1) FIDO 認証を利用するには、POST や moodle などにログインする（利用する）端末を登録する必要があります。FIDO 認証を利用する端末を用いて、コンピュータ環境の使い方から多要素認証の「設定サイト」をクリックします。



- (2) 初回登録のため、ここでは「ID/パスワード認証」を選択します。
(※FIDO 認証の登録完了後は、「FIDO 認証」を選択します。)

京都産業大学 KYOTO SANGYO UNIVERSITY

学認システム

認証方式

ID/パスワード認証
□ 次回 FIDO認証

選択

お知らせ

- 学内ネットワークからのアクセスは多要素認証が不要です。
- 多要素認証の設定は事前に設定する必要があります。
- 未設定の方はこちらから設定してください。
- KSU-WiFiなど学内ネットワークに接続していても多要素認証を確認される場合は、特定のブラウザやセキュリティ機能(VPNや匿名機能)により学外ネットワーク経由でアクセスしています。該当の機能を無効にすることや別のブラウザをお試しください。

GakuNin 日本の大学の相互認証基盤である「学術認証基盤—GakuNin（学認）」に参加しています。

- (3) ユーザ ID とパスワードを入力し、ログインします。
※学外からアクセスした場合、ワンタイムパスワード認証の画面が続けて表示されます。

京都産業大学 KYOTO SANGYO UNIVERSITY

学認システム

← 認証方式の選択に戻る

ユーザ-ID

パスワード

□ ユーザーIDを記憶する

ログイン

お知らせ

- この画面で長時間放置するとログインに失敗します。
- このページに「お気に入り/ブックマーク/履歴」から再接続できません。
- ブラウザのCookieを有効にしてください。
- パスワードに半角スペースが含まれていると認証に失敗します。パスワードをこちらで変更してからお使いください。
- パスワードがわからなくなったら場合、10号館3階のカウンターで再発行してください。

GakuNin 日本の大学の相互認証基盤である「学術認証基盤—GakuNin（学認）」に参加しています。

- (4) ログイン ID が自身のものであることを確認し、画面下部にある「FIDO 認証デバイスの設定」をクリックします。



- (5) 「登録」をクリックします。



(6) FIDO 認証デバイスの登録を行います。

※端末によって表示される画面が異なります。

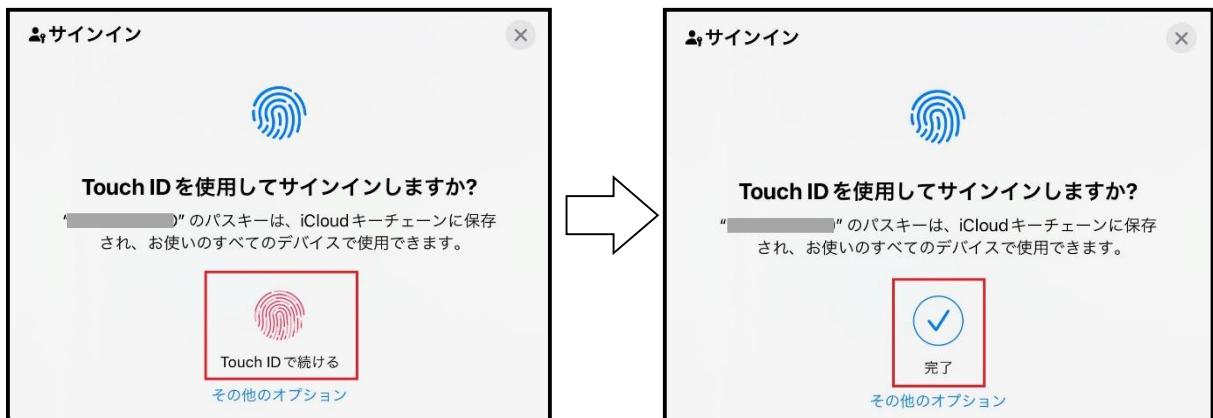
< Apple Face ID (顔認証) >

「続ける」をクリックします。



< Apple Touch ID (指紋認証) >

「Touch ID で続ける」をクリックします。



◎Apple の「iCloud キーチェーン」機能について

FIDO 認証を利用するには iCloud キーチェーンの同期を ON にする必要があります。ON になっている場合、いずれかの Apple 端末で設定すると、他の Apple 端末にも認証情報が反映されるため、それぞれの端末で設定する必要はありません。同期を望まない方は、OFF にしていただきワンタイムパスワード認証をご利用ください。

例) iPhone にて FIDO 認証設定作業 (Face ID) を実施すると、iCloud キーチェーンに FIDO の認証情報が保存されます。その他の Apple 端末でキーチェーンによる同期を行っている場合はこの認証情報をを利用して認証されますので、その他の端末を登録する必要はありません（登録しようとしてもエラーが発生します）。



iCloud キーチェーンの同期設定箇所は、以下の通りです。

「設定」→画面の一番上に表示されるユーザ名→「iCloud」→「パスワードとキーチェーン」

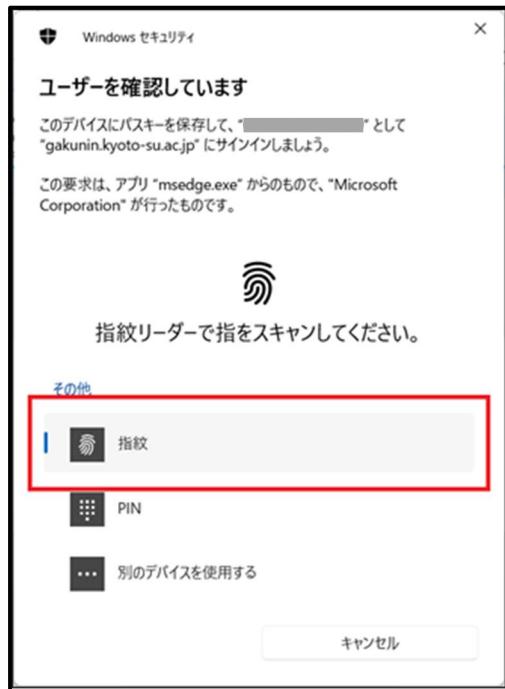
iCloud キーチェーンの詳細については、下記をご参考ください。

<https://support.apple.com/ja-jp/HT204085>

< Windows Hello >

※以下は一例です。お使いの端末によって表示される画面が異なる場合があります。

「指紋」を選択し、「指紋リーダーで指をスキャンしてください。」と表示されていることを確認後、指をスキャンします。



指紋をスキャンさせると、「保存されたパスキー」という画面が表示されますので、正しく名前が表示されていることを確認後、「OK」を選択します。



< Android >

※以下は一例です。お使いの端末によって求められる認証方法が異なります。

(例:本体のパスワード・指紋・顔・パターン・スワイプなど)

「このデバイス」を選択すると、「画面ロックを使用する」という画面に遷移し、ご自身のスマートフォンで設定している「PIN番号(暗証番号)」を求められますので、入力して「確認」を選択します。



- (7) 「FIDO認証デバイスの設定」画面に自動で戻りますので、登録した認証デバイスの登録情報が表示されていることを確認します。

※登録情報が表示されるまで数秒かかりますのでお待ちください。

種類	状態	ラベル	登録日時	操作
FIDO (UP/UV)	有効		2023/12/27 15:25:24	

これにて設定は完了です。

◎デバイス情報の「種類」の表示が異なる場合があります。

<iOS>

- ・iOS 16 以降:FIDO (UP/UV)
- ・iOS 16 未満:iPhone/iPad

◎ラベル名を登録することができます。

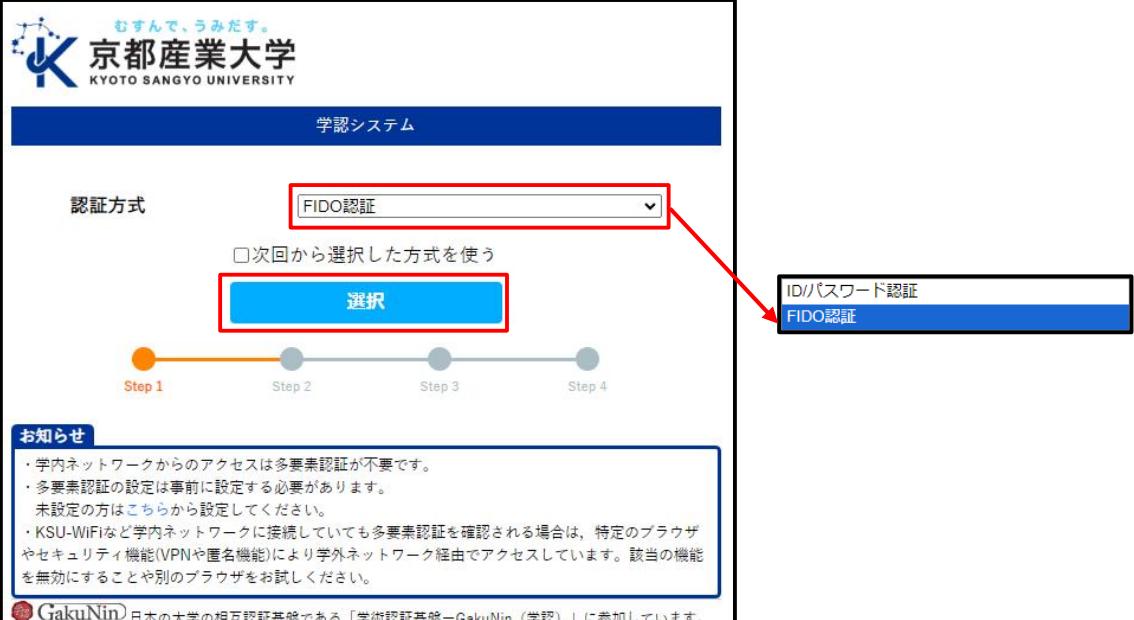
一番右の「操作」欄の編集ボタンをクリックし、ラベル名を入力します。

入力後「更新」をクリックすると、「ラベル」欄に入力した名称が表示されます。

※端末名を入力することをお勧めします。

【FIDO 認証でのログイン方法】

認証方式のプルダウンから「FIDO 認証」を選択し、「選択」をクリックします。



京都産業大学 KYOTO SANGYO UNIVERSITY

学認システム

認証方式

次回から選択した方式を使う

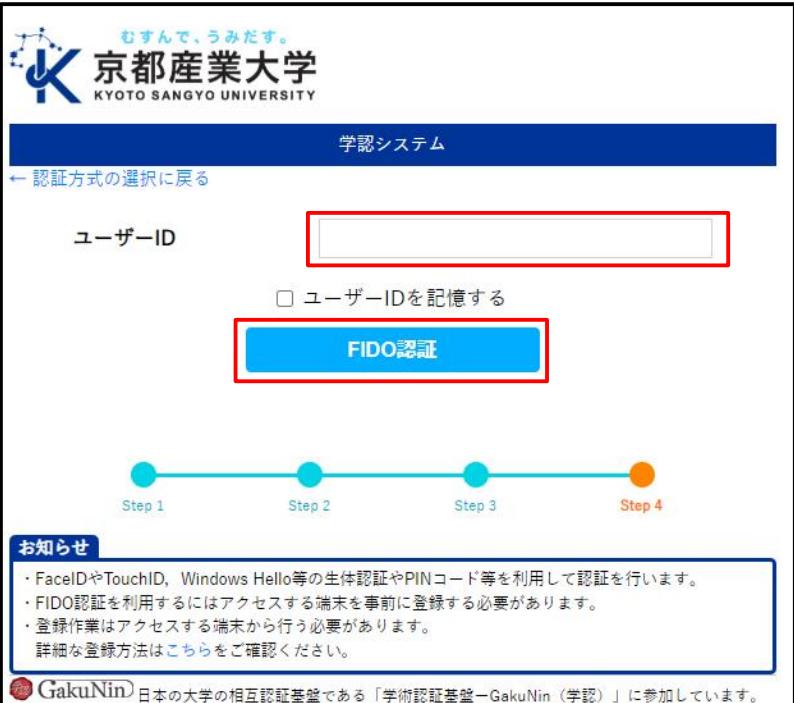
Step 1 Step 2 Step 3 Step 4

お知らせ

- ・学内ネットワークからのアクセスは多要素認証が不要です。
- ・多要素認証の設定は事前に設定する必要があります。
- 未設定の方は[こちら](#)から設定してください。
- ・KSU-WiFiなど学内ネットワークに接続していても多要素認証を確認される場合は、特定のブラウザやセキュリティ機能(VPNや匿名機能)により学外ネットワーク経由でアクセスしています。該当の機能を無効にすることや別のブラウザをお試しください。

GakuNin 日本の大学の相互認証基盤である「学術認証基盤—GakuNin（学認）」に参加しています。

ユーザ ID を入力し、「FIDO 認証」をクリックします。クリックすると、端末上に FaceID や TouchID 等の認証画面が表示され、ログインすることができます。



京都産業大学 KYOTO SANGYO UNIVERSITY

学認システム

← 認証方式の選択に戻る

ユーザーID

ユーザーIDを記憶する

Step 1 Step 2 Step 3 Step 4

お知らせ

- ・FaceIDやTouchID、Windows Hello等の生体認証やPINコード等を利用して認証を行います。
- ・FIDO認証を利用するにはアクセスする端末を事前に登録する必要があります。
- ・登録作業はアクセスする端末から行う必要があります。

GakuNin 日本の大学の相互認証基盤である「学術認証基盤—GakuNin（学認）」に参加しています。

4 「POST」の利用

POST (POrtal Site Total System) は、本学に関する重要な情報（休講・補講に関する情報や課外活動、奨学金、就職活動に関する情報など）を確認することができます。個人宛の通知も送られてきますので、1日1回は確認してください。

(1) 専用アプリのインストール

専用アプリ「BIND.note」をインストールします。



App Store

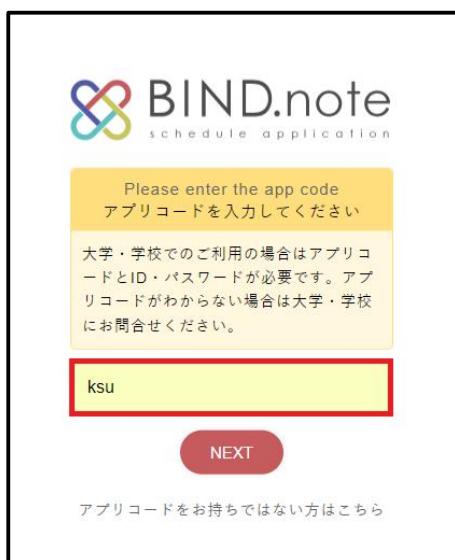


Google Play



アプリコード「ksu」を入力し、「NEXT」をクリックします。

※アプリコードを求められるのは、初回ログイン時とアップデート後のログインのみです。



言語（日本語、英語）を選択し、「ログイン」をクリックします。



大学で発行している「ユーザ ID」と「パスワード」を入力して
「ログイン」をクリックします。これにて POST にログインできます。
※学外からアクセスする場合は多要素認証が必要です。

おすんで、みみをす。
京都産業大学
KYOTO SANGYO UNIVERSITY

学認システム

← 認証方式の選択に戻る

ユーザーID

パスワード

ユーザーIDを記憶する

ログイン

Step 1 Step 2 Step 3 Step 4

お知らせ

- この状態で長時間放置するとログインに失敗します。
- このページに「お気に入り/ブックマーク/履歴」から再接続できません。
- ブラウザのCookieを有効にしてください。
- パスワードに半角スペースが含まれていると認証に失敗します。パスワードをこちらで変更してください。
- パスワードがわからなくなったら、10回達成したカウンターで再発行してください。

GakuNin 日本の大手の相互認証基盤である「学術認証基盤—GakuNin（学認）」に参加しています。

↓ 多要素認証画面

おすんで、みみをす。
京都産業大学
KYOTO SANGYO UNIVERSITY

学認システム

← 認証方式の選択に戻る

ユーザーID

ワンタイムパスワード

このプラウザでは多要素認証を一時期間停止する

ログイン

ワンタイムパスワードを設定および初期化する方はこちらへ

Step 1 Step 2 Step 3 Step 4

お知らせ

- Google Authenticator等のアプリは表示される6桁の数字を入力してください。
- 端末やアプリの時間がズレてしまうと、ログインすることができます。
- 以下に表示される場合は、多要素認証を設定もしくは認証を初期化する必要があります。
 - 一度でも多要素認証を設定したことがない
 - 機種変更等で多要素認証の設定を動作しない時は引き継いでおらず旧端末が手元にない
 - ワンタイムパスワードを設定および初期化する時は、こちらをクリックしてください。

GakuNin 日本の大手の相互認証基盤である「学術認証基盤—GakuNin（学認）」に参加しています。

【POST の主な機能紹介】

パソコンから WEB 版へアクセスされる場合は、
Microsoft Edge, Google Chrome, Safari から
アクセスしてください。



プラス【+】をクリックし、
自分のスケジュールを
登録して管理してください。

三本線【≡】をクリックして
メニューを開いてください。



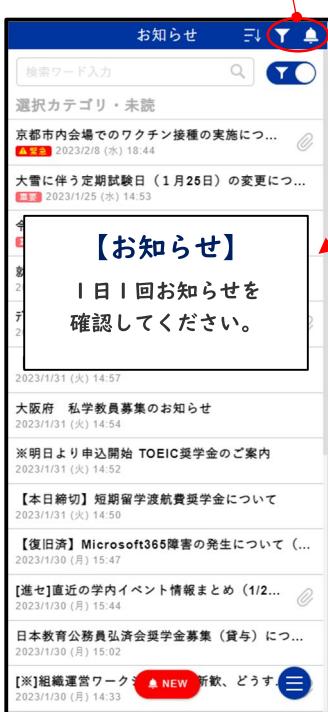
【リンク集】

Office365 メールや学習管理
システム「moodle」、履修登録
システムなどへ簡単にアクセスが
できます。



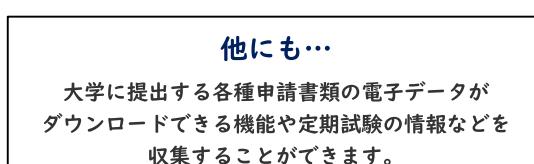
【カテゴリ設定・通知設定】

表示するお知らせのカテゴリや
重要度を設定できます。
また、Push 通知やメール通知
といった通知設定をすることも
可能ですので、自分の使いやすい
ように設定してください。



【時間割】

自身の時間割から休講・補講、
教室変更などの授業情報を
確認できます。



他にも…

大学に提出する各種申請書類の電子データが
ダウンロードできる機能や定期試験の情報などを
収集することができます。

詳しい使用方法はこちらから>>
「コンピュータ環境の使い方」



5 「moodle」の利用

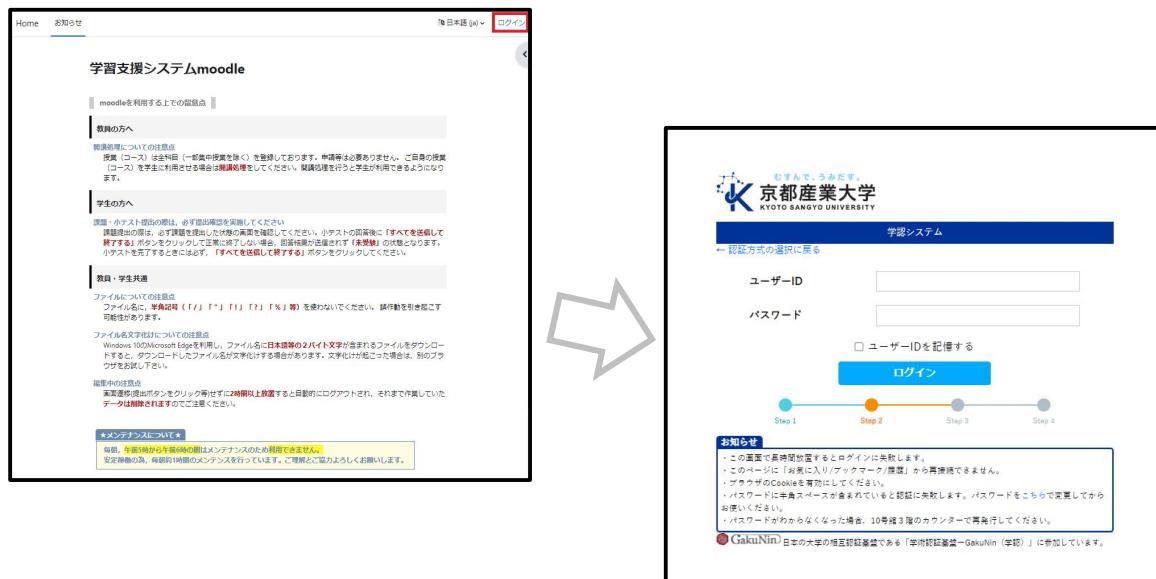
moodle とは、授業で利用した資料の確認や小テスト等が Web から利用することができる学習管理システム（e-Learning）です。

(1) moodle ログイン方法

本学公式ホームページ (<https://www.kyoto-su.ac.jp/>) から
「訪問者別」→「在学生の方」→「moodle」の順にクリックします。



画面右上の「ログイン」から moodle にログインします。
※学外からアクセスする場合は多要素認証が必要です。



【moodle の主な機能紹介】

【学生用マニュアル】
課題の提出方法や評点の確認方法など、利用マニュアル式はこちらでご確認ください。

【通知設定】
課題の通知や小テストの送信可否に関する通知を受け取ることができます。

ダッシュボード

情報センターからのお知らせ

期日が設定されている課題一覧
※期日が設定されていない課題・小テストは表示されません。

【課題一覧】
提出締切日が設定されている課題を一覧で確認することができます。また、ここから対象の課題、小テストにページ遷移することもできます。

【カレンダー】
課題の提出締切日などが掲載されます。「新しいイベント」から自身の予定を追加することも可能です。

レポートを提出する

39

6 「Microsoft365Apps」の利用

在学中は Word や Excel などの Microsoft Office 製品のライセンス（Microsoft365 ライセンス）を大学から無償貸与しています。最新版の Office 製品を自身の PC やスマートフォンにインストールして無償で利用することができます。課題レポートや遠隔授業など様々な場面で使用することができますので、事前にインストールしてください。

※画像は 2025 年 10 月 13 日時点のものになります。文言が異なる場合があります。

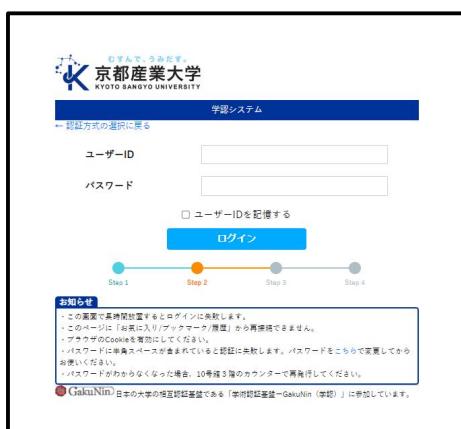
(1) インストール方法

本学公式ホームページ（<https://www.kyoto-su.ac.jp/>）から
「訪問者別」→「在学生の方」→「Office365 メール」の順にクリックします。



大学で発行している「ユーザ ID」と「パスワード」を入力して
「ログイン」をクリックします。

※学外からアクセスする場合は多要素認証が必要です。



画面左上のタイルのマークをクリックします。



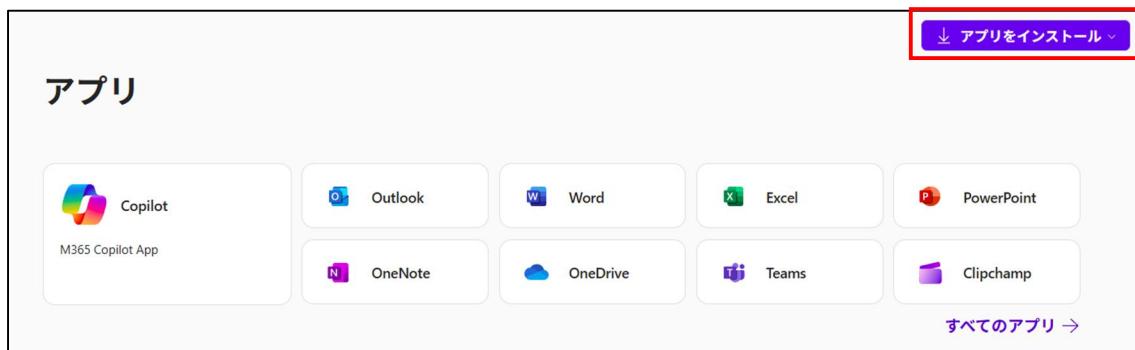
表示された画面の「Microsoft 365 Copilot」をクリックします。



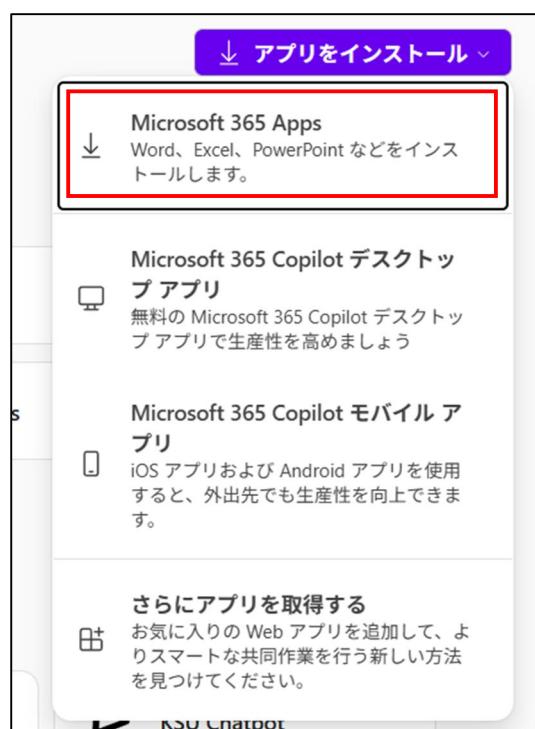
「アプリ」をクリックします。



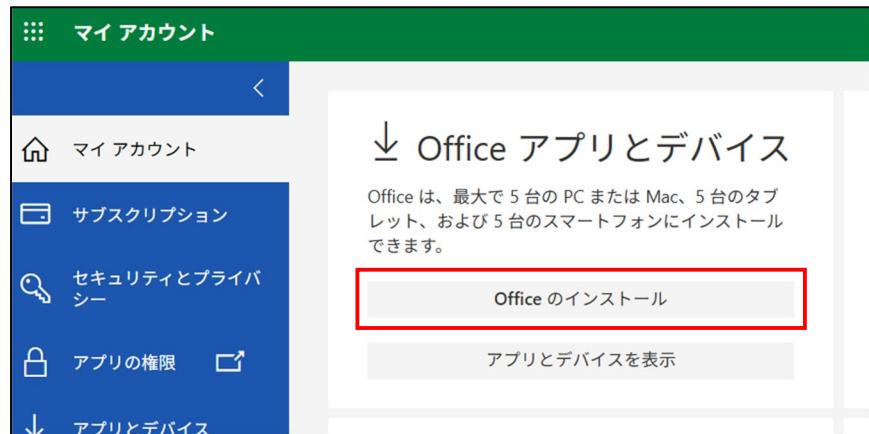
右上の「アプリをインストール」をクリックします。



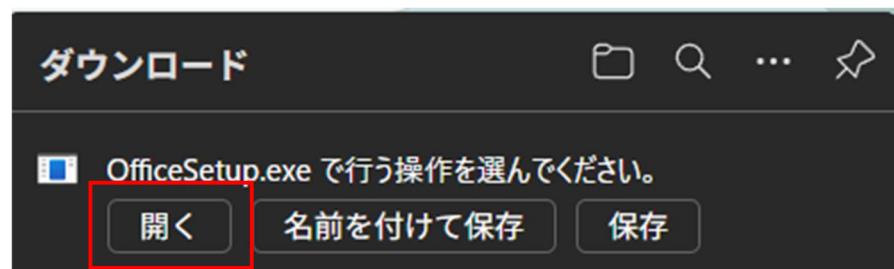
「Microsoft 365 Apps」をクリックします。



サインイン後、マイアカウントページに遷移されることを確認したら、
「Office のインストール」をクリックします。



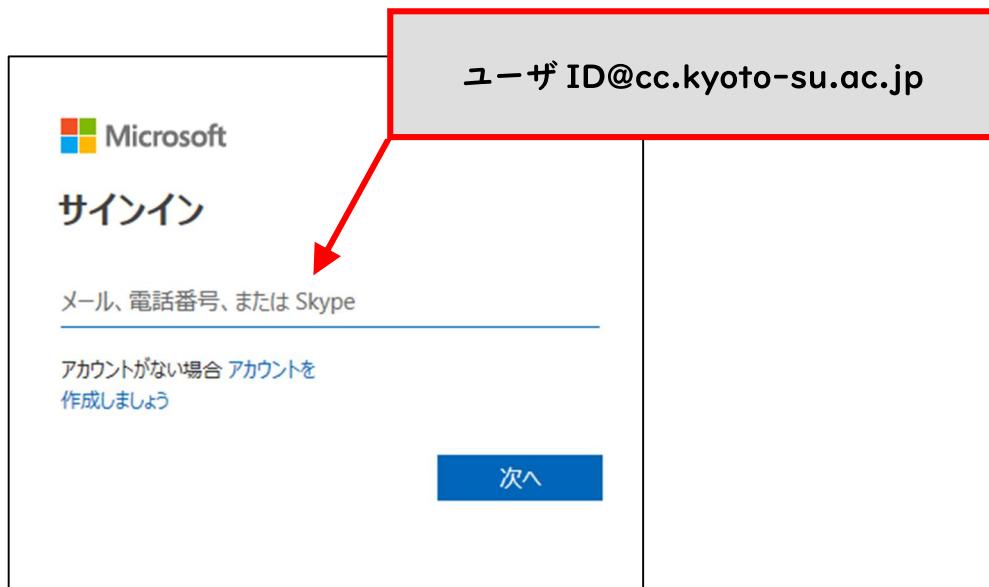
自動でダウンロードが開始された後、「開く」をクリックします。
クリック後、インストール作業が開始されますので、少々お待ちください。
※インストールに 5 ~ 10 分ほどかかります。



インストール作業が完了後、問題なく起動するか確認してください。

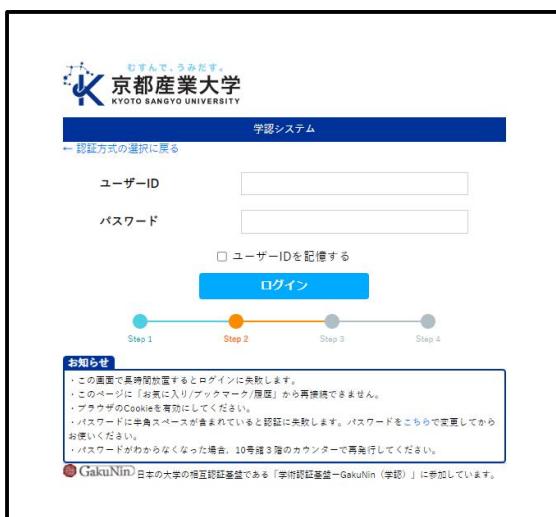
(2) サインイン方法

インストールが完了したら、使用したい Microsoft アプリを開いてください。今回は例として、Excel を開きます。初めてアプリを開くと、サインインを求められるので、本学の「ユーザ ID@cc.kyoto-su.ac.jp」を入力し、「次へ」をクリックします。



大学で発行している「ユーザ ID」と「パスワード」を入力して
「ログイン」をクリックします。

※学外からアクセスする場合は多要素認証が必要です。



画面右上にあなたのアカウント名が正しく表示されていれば、サインイン完了です。



7 「Microsoft Teams」の利用

本学在籍中は「Microsoft Teams for education」を無償で利用することができます。本学では、授業資料の共有やビデオ会議機能を用いた遠隔授業が実施される場合がありますので、利用方法を事前に確認してください。

<インストール方法&サインイン方法>

Teams アプリのダウンロードサイトにアクセスします。

(<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-teams/download-app>)

<Windows の場合>

「Windows 用の Microsoft Teams をダウンロードする」をクリック

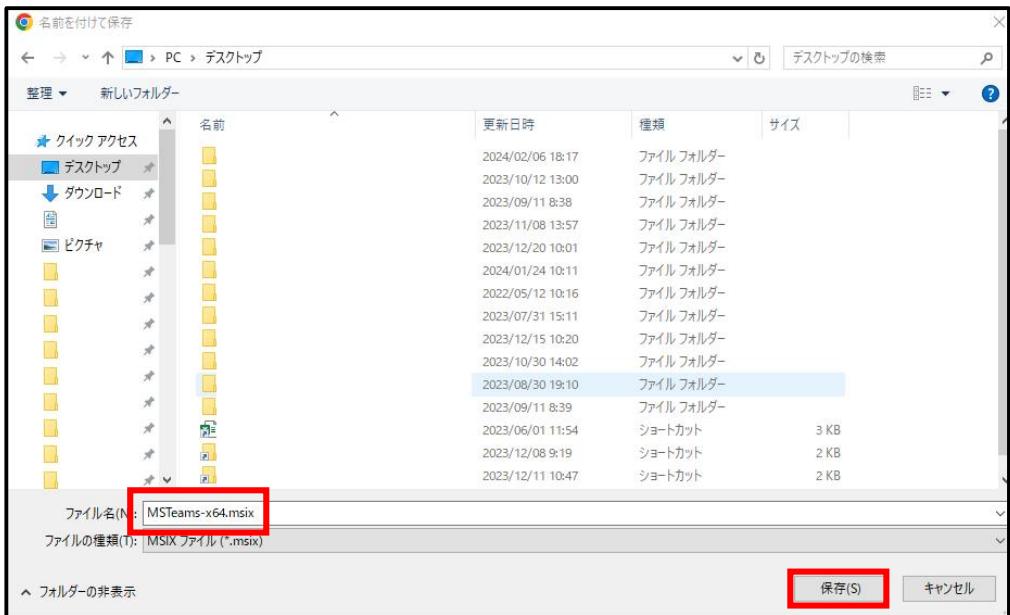


<Mac の場合>

「Mac 用 Microsoft Teams をダウンロードする」をクリック



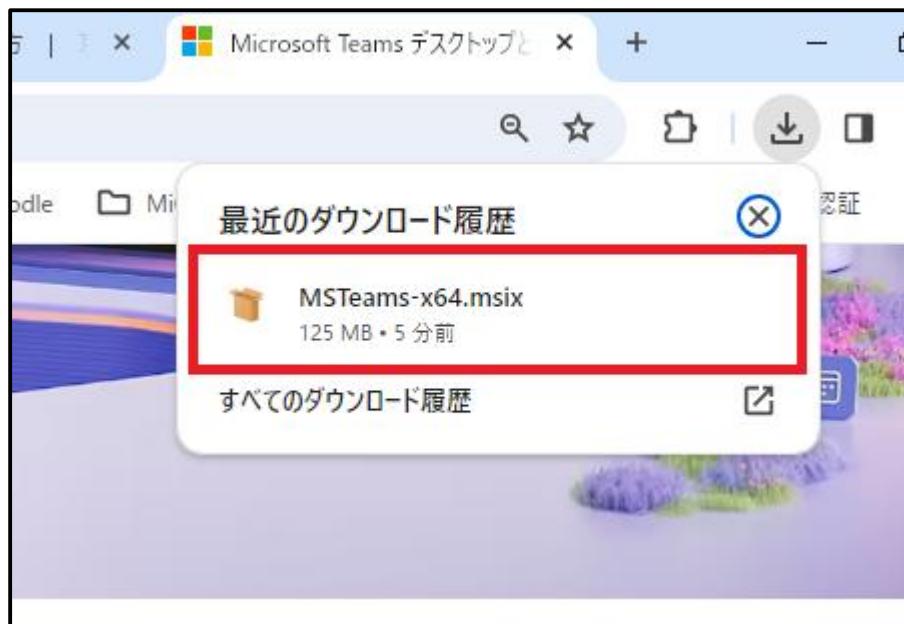
適当な場所にダウンロードファイルを保存します。



ダウンロードされたファイルが表示されますので、クリックします。

※ブラウザによって表示される場所が異なります。

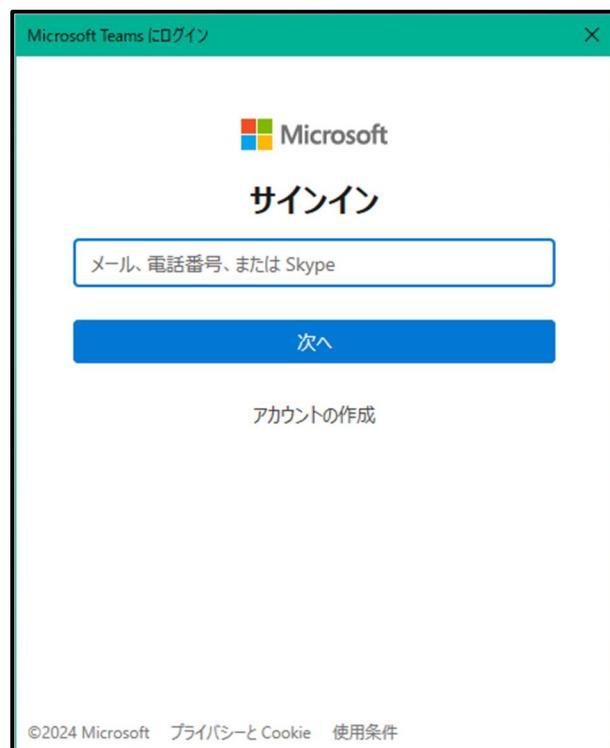
Microsoft Edge, Google Chrome は右上に表示されます。



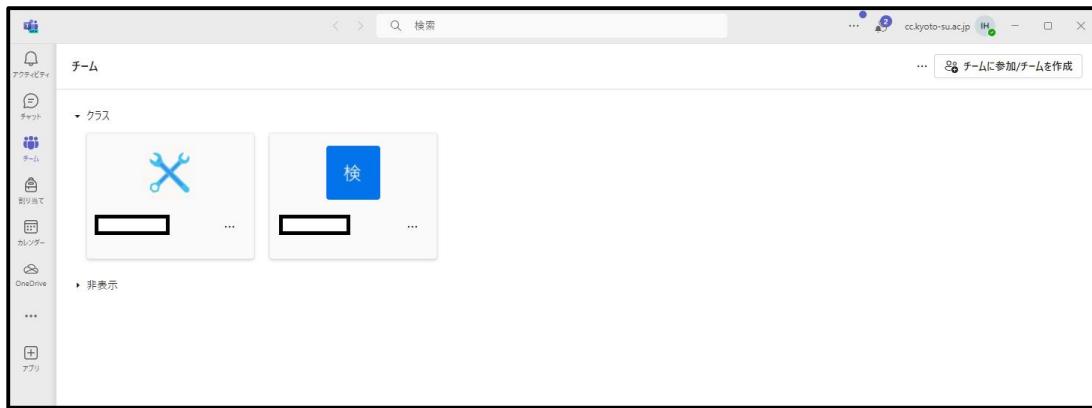
「Teams のインストール」をクリックします。



サインイン画面が表示されるので、ご自身のアカウント（g2〇〇〇〇〇〇
@cc.kyoto-su.ac.jp）を入力し、「次へ」をクリックします。

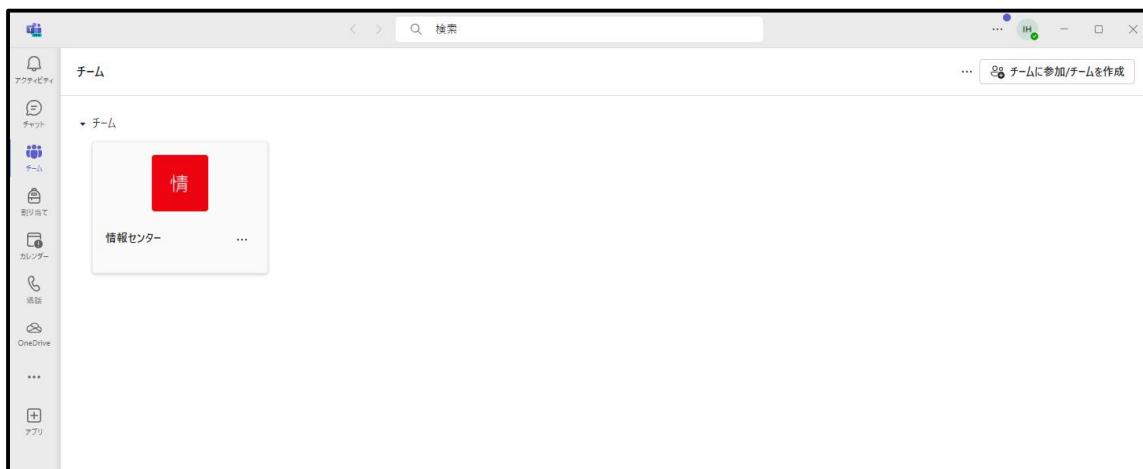


大学のアカウントに切り替わります。

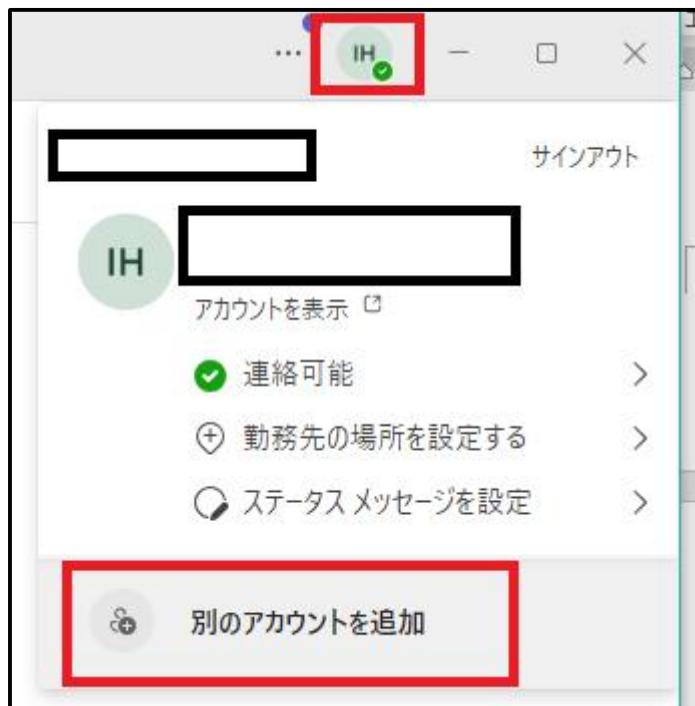


<PC 自体が Microsoft にサインインしている場合>

「Teams のインストール」をクリックすると、PC にてサインインしているアカウントで自動的にサインインされます。



大学アカウント (@cc) に切り替える場合、右上にあるアカウントのボタンをクリックし、「別のアカウントを追加」をクリックします。



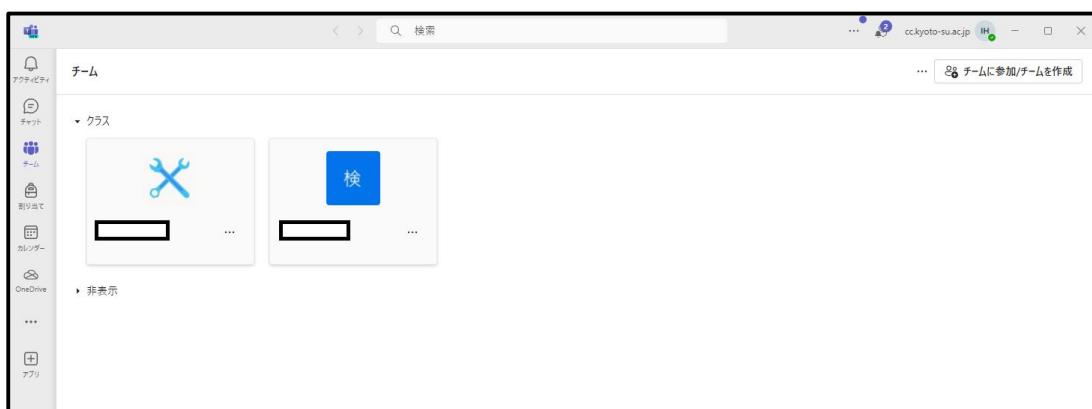
「別のアカウントを作成または追加」をクリックします。



ご自身のアカウント (g2000000@cc.kyoto-su.ac.jp) を入力し、「次へ」をクリックします。



大学のアカウントに切り替わります。



8 「Office365 メール」の利用

大学の電子メールとして、本学では「Office 365 メール」を導入し、利用方法のサポートも行っています。「Office 365 メール」はインターネットに接続できる環境があれば、世界中どこからでも使用することができます。



(1) ログイン方法

本学公式ホームページ (<https://www.kyoto-su.ac.jp/>) から
「訪問者別」→「在学生の方」→「Office365 メール」の順にクリックします。



サインインに成功すると、初回のみタイムゾーンの設定が必要ですので、
「(UTC+09:00) 大阪、札幌、東京」を選択し、保存をクリックします。

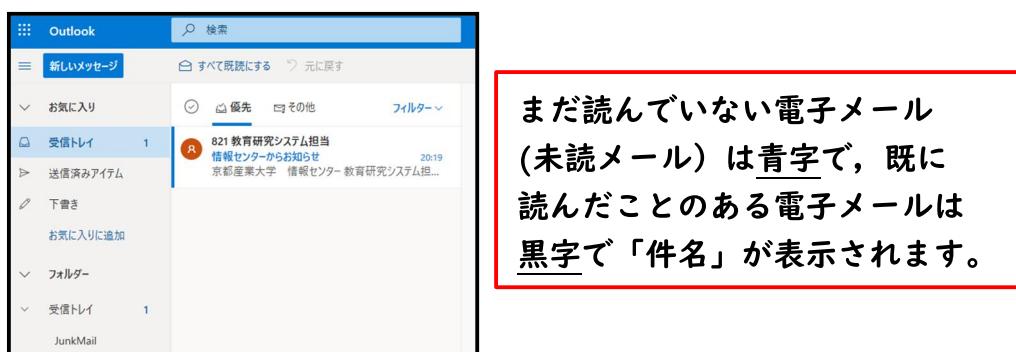


(2) 電子メールの受信・閲覧方法

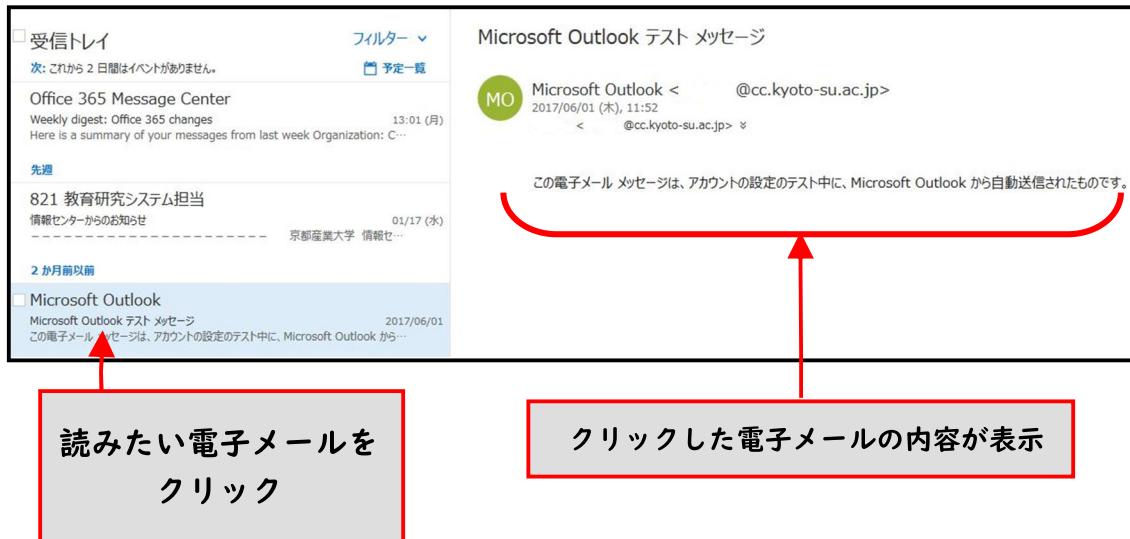
Office 365 メールトップ画面から、「受信トレイ」をクリックします。



トップ画面の中央部に受信メールの一覧が表示されます。

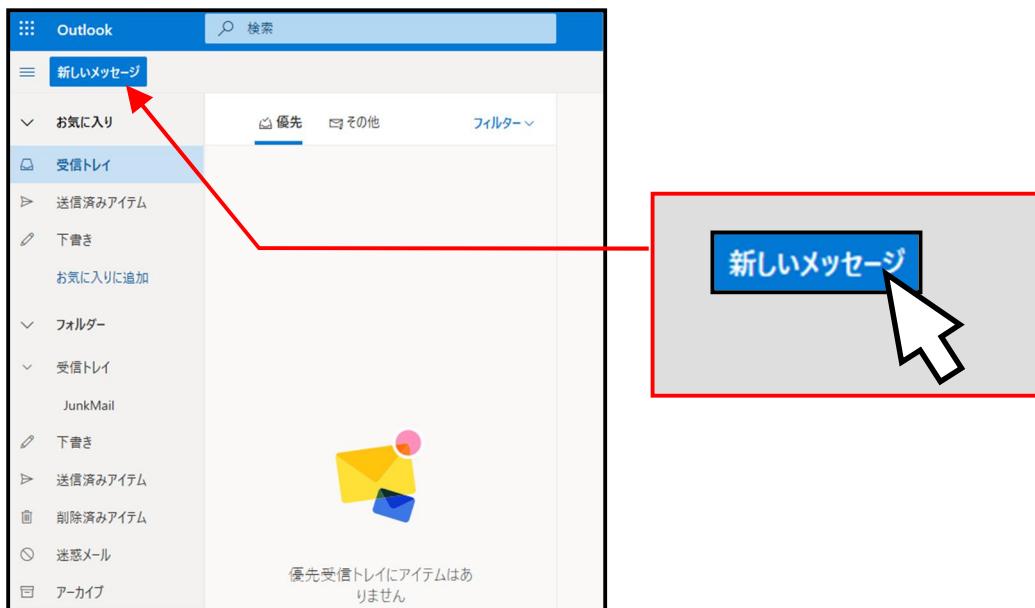


表示された一覧の中から、読みたい電子メールをクリックすると、画面右に電子メールの本文が表示されます。

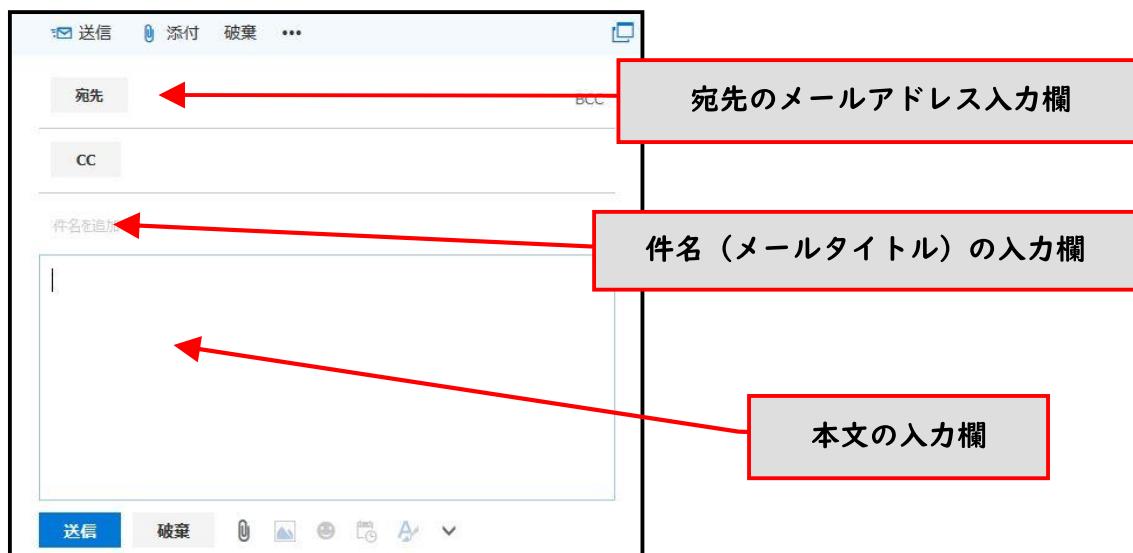


(3) 電子メールの送信方法

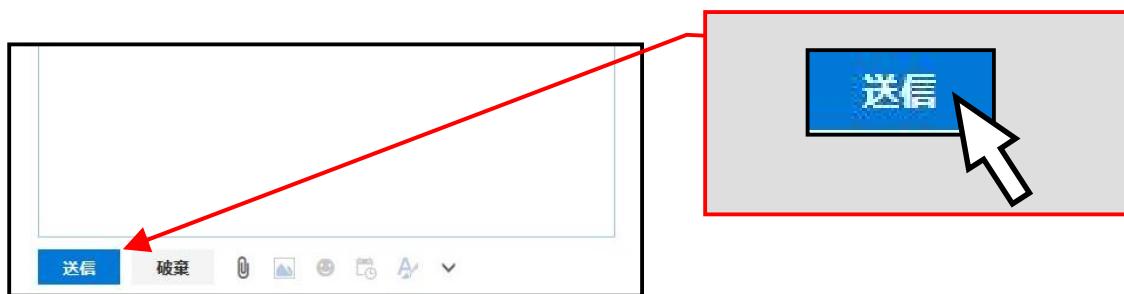
Office 365 メールトップ画面から、「新しいメッセージ」ボタンをクリックします。



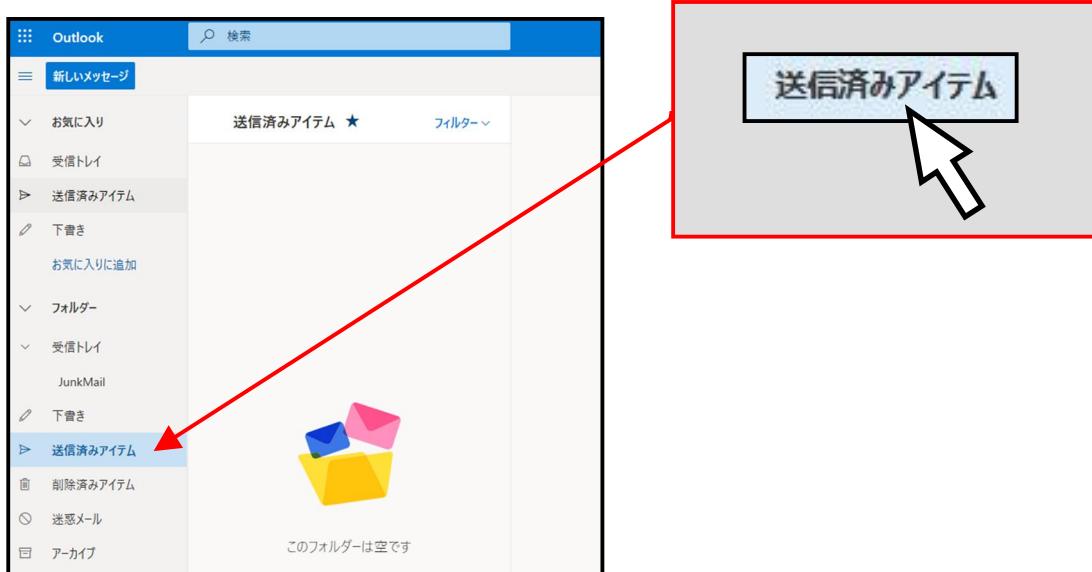
電子メールを作成するためのウィンドウが新たに表示されます。
「宛先」に相手のメールアドレス、「件名」に送信する電子メールの
タイトル、「本文」にメッセージ内容を入力します。



入力内容を確認し、問題がなければ「送信」ボタンをクリックします。



送信が完了したメールは「送信済みアイテム」から確認できます。



送信済みアイテム



電子メールの利用には、メリットだけではなく以下ののようなデメリットも存在します。利用上のデメリットについても理解したうえで、電子メールを活用しましょう。

1. 確実に相手に届く保証がない

電子メールは、インターネットを経由する途中で、停電や機械の故障などによって紛失してしまう可能性があります。重要な連絡の場合はメールだけに頼らず、他の連絡手段も用いるようにしてください。

2. すぐに読んでもらえない、読まれているかわからない

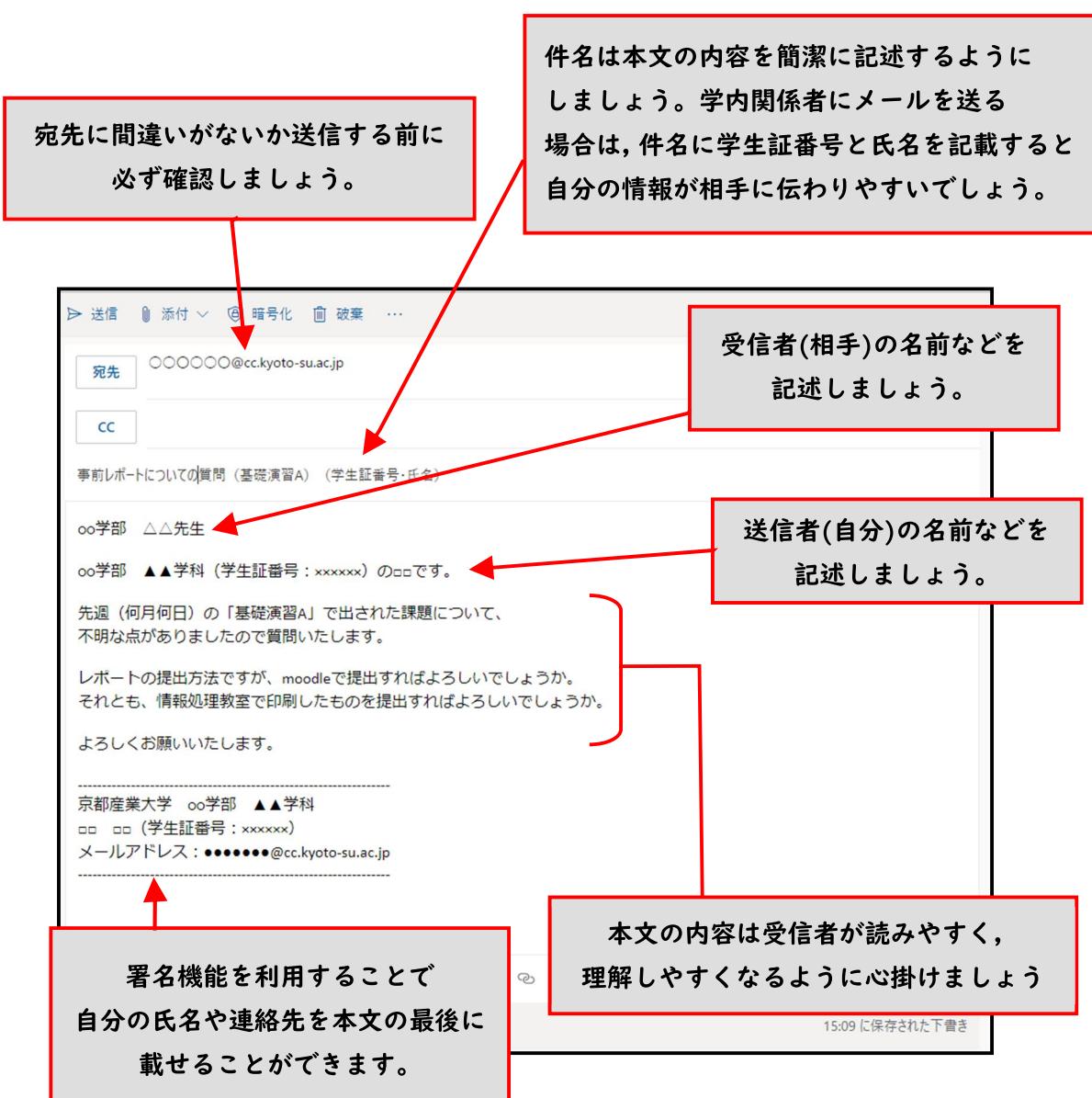
メールを相手に送信しても、相手から返信や反応がない限り、メールが読まれたかについてこちらから確認することはできません。電子メールは何らかの理由で正しく相手に届かなかったり、受信したとしても自動的に迷惑メールに振り分けられている可能性があります。すぐに確認や返事が欲しい連絡や緊急性の高い連絡の場合は、電子メールは向いていないともいえるでしょう。

(4) 電子メールの書き方

電子メールの書き方には基本的なルールがあります。

Instagram や LINE などの SNS と異なり、電子メールは相手のアドレスを知るだけで、友達登録がない人にも送信できます。受け取る人から見れば、知らないメールアドレスから初めて届くメールは、誰が送ってきたか、また間違いメールでないのか分かりません。このため、必ず本文の最初に、宛先と自分の名前を含めることが必要です。

電子メールを作成する際は以下の点に注意するようにしてください。



以上のような点に注意して、正しくメールを扱えるようになります。

(5) 割当容量について

個人に割り当てられたメールの保存割当容量は 100GB です。この割当容量を超えた場合、新たに届いた電子メールを受け取ることができなくなります。



The screenshot shows the 'Storage' section of the Microsoft Outlook settings. It displays the total storage available (100.00 GB) and the current usage (0.12 GB, or 0.1%). A red box highlights the message: "Outlook メールボックスに 100.00 GB のストレージがあります。メールボックスの容量が上限に達すると、メッセージの送受信ができなくなります。" Below this, a legend indicates the categories of items: Received Items (blue), Deleted Items (orange), Sent Items (green), and Others (black). A red arrow points from the bottom text box to the 'Deleted Items' category in the legend.

現在使用している容量を調べるには、「Office 365 メール」にサインインし、設定>Outlook のすべての設定を表示>全般>ストレージに表示されている「使用量」を確認してください。

Outlook メールボックスに 100.00 GB のストレージがあります。メールボックスの容量が上限に達すると、メッセージの送受信ができなくなります。
100.00 GB 中 0.12 GB 使用 (0.1%)



9 「OneDrive」の利用

「OneDrive」とは、本学が提携している Microsoft が提供しているクラウド・ストレージ・サービスです。インターネットに接続していれば、学内外問わず、同じ環境に接続することができます。

※個人に割り当てられた保存割当容量は **100GB** です（10GB から 100GB に変更 /2025 年 9 月 17 日以降）。この割当容量を超えた場合、新たなファイルのアップロードや不要なファイルの削除ができなくなります。割当容量の空きが少なくなつた場合、不要なファイルを削除し、割当容量を超えないようにしてください。

<サインイン方法>

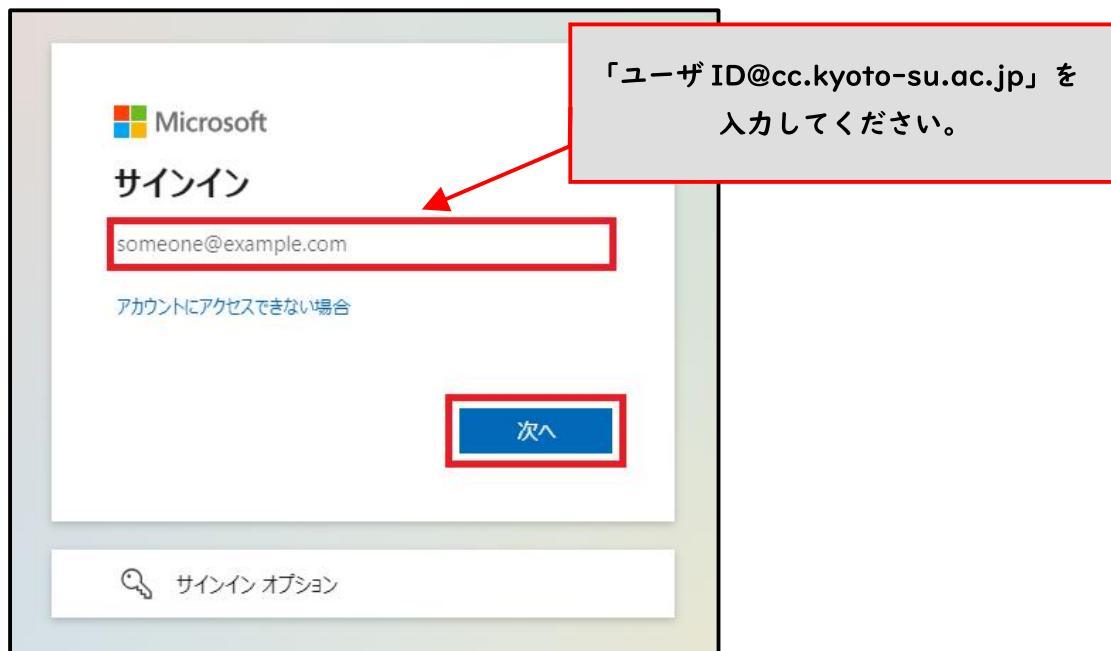
本学公式ホームページ（<https://www.kyoto-su.ac.jp/>）から
「訪問者別」→「在学生の方」→「OneDrive」の順にクリックします。



※OneDrive はスマートフォン用のアプリも用意されています。

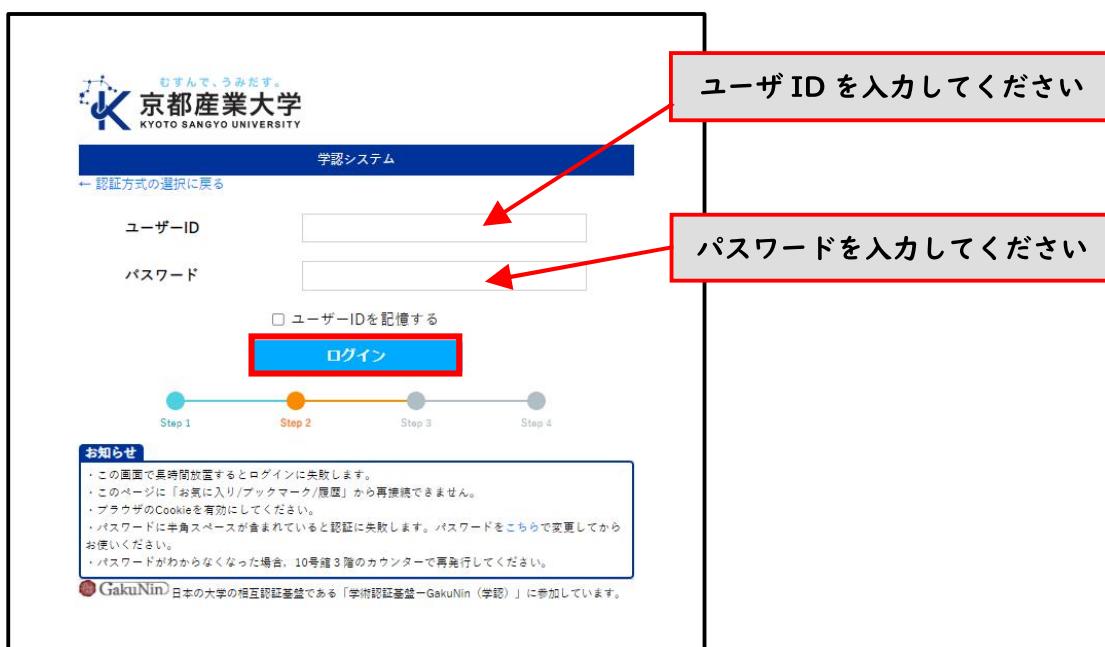
詳しくは、本学 Web サイト「コンピュータ環境の使い方」を確認してください。

サインイン画面が表示されますので、「ユーザ ID@cc.kyoto-su.ac.jp」を入力して「次へ」ボタンをクリックします。



ユーザ ID・パスワードを入力して、「ログイン」ボタンをクリックします。

※学外からアクセスする場合は多要素認証が必要です。



OneDrive の画面が開きます。

使用容量を確認したい場合は、左下の「ストレージ」をご確認ください。



以上でサインインは完了です。

10 端末の充電

学内にて遠隔授業等でノートパソコンを利用する際、バッテリー残量に注意する必要があります。受講途中でバッテリー切れにならないよう、以下の点を参考にして備えてください。

・事前の充電

事前に自宅などで十分に充電をしてください。大容量バッテリーを搭載している場合は充電に長時間かかることもありますので注意してください。なお、劣化したバッテリーは充電容量が少なくなっていることもあります。

・低電力モード/省電力モード設定

Windows や MacOS では、一般的に省電力モードと呼ばれるバッテリー使用量を減らす仕組みが搭載されています。この仕組みを利用することでバッテリーの消費量が少なくなり、長く利用できる場合があります。また、液晶のバックライトを暗くする（画面照度を下げる）方法も省電力化が期待できます。

・モバイルバッテリーの利用

最近販売されたノートパソコンの一部には、モバイルバッテリーでの給電が可能なものがあります。自分のノートパソコンでモバイルバッテリーが使えるかわからない場合は、購入店に確認してください。

なお、モバイルバッテリーを学内で購入したい場合は、学内売店のパソコンショップ（天地館 1F）に相談してください。

・電源コンセントが利用できる場所

学内には、電源コンセントが利用可能な教室があります。電源コンセントの設置場所については、「II-2. 電源コンセントの利用」をご確認ください。

II. 施設・設備

I ロビープリンタの利用

ロビープリンタは、自分自身のノートパソコンや iPhone / iPad 等のモバイル端末から Wi-Fi を介して印刷することができます。皆が快適に利用できるよう譲り合ってご活用ください。



(1) ロビープリンタ利用の事前準備について

・持込機器を Wi-Fi に接続する

ロビープリンタで印刷するにあたり、印刷したいデータを持つ機器を本学の Wi-Fi (SSID:KSU-WiFi) に接続する必要があります。キャリアの回線 (4G や 5G 等) ではロビープリンタをご利用いただけませんので、ご注意ください。

・ドライバをインストールする

持込機器によってドライバのインストール方法が異なります。「Windows」「Mac」「モバイル環境（スマートフォン等）」それぞれについて、本学 Web サイト「コンピュータ環境の使い方」のロビープリンタのページにインストール方法を記載していますので、詳しいインストール方法についてはそちらをご覧ください。

・印刷用紙を準備する **(特に注意)**

プリンタの利用において、「自習利用中に必要となる印刷用紙は利用者本人が準備する」というルールで運用しています（授業で必要な印刷用紙は教員が準備します）。印刷する場合は、あらかじめ印刷用紙（A4 サイズのレーザプリンタ用紙またはコピー用紙）を準備してください。 印刷用紙は、学内売店の丸善（天地館 1F）などの一般量販店で購入できるものが使用できます。

※感熱紙やルーズリーフなど、指定された印刷用紙以外を使用しないでください。

(2) 印刷ルール・印刷トラブル

原則として「プリンタの手差しトレイに印刷用紙をセットした人が印刷する権利を持つ」と考えてください。間違って他の利用者がセットした用紙に印刷してしまった場合は、印刷した枚数の用紙を渡すなど、マナーを守って印刷をしてください。特に、すぐに印刷しないのに印刷用紙を置いておくなど、他の利用者に迷惑がかかる行為は禁止しています。

紙詰まり等のトラブルが発生した場合は、放置したり自分で対処を行わず、情報センターカウンター(10号館 3階)に連絡してください。プリンタ上部に QR コードを掲載しています。このコードを読み取ると情報センター(MiCS)宛のメールが自動生成されるので、そのまま送信してください。トラブルを未然に防止するため、また、トラブルによる被害を最小限にとどめるためにご協力をお願いいたします。

(3) 印刷方法

印刷したいファイルの印刷画面を表示してください。出力先のプリンタ名を確認した上で印刷実行ボタンを押してください。出力先のプリンタ名はプリンタに記載されています。

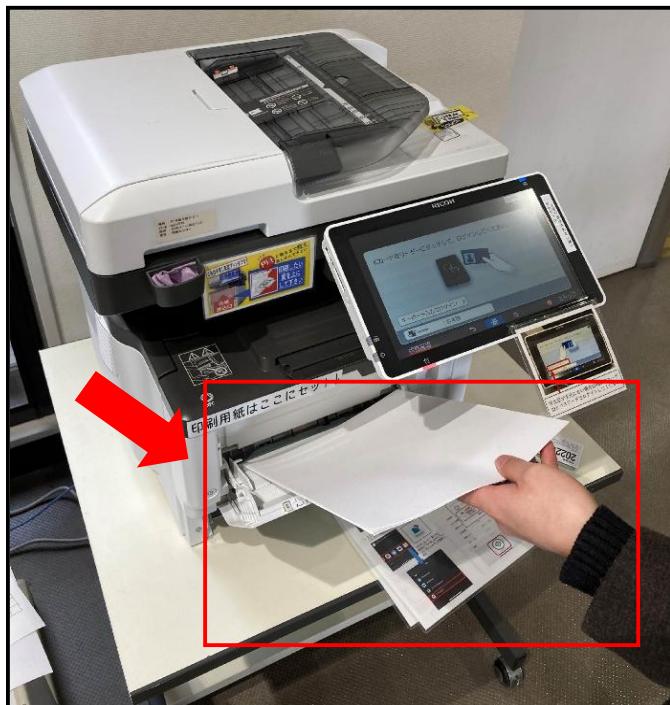
(例：Microsoft Word の場合…左上「ファイル」から「印刷」を選択)



印刷先のプリンタに行き、他の利用者が利用していないことを確認してから、カードリーダに学生証をかざし、プリンタにログインします。
※学生証で認証ができない場合は、「ユーザ ID」と「パスワード」を入力してログインしてください。



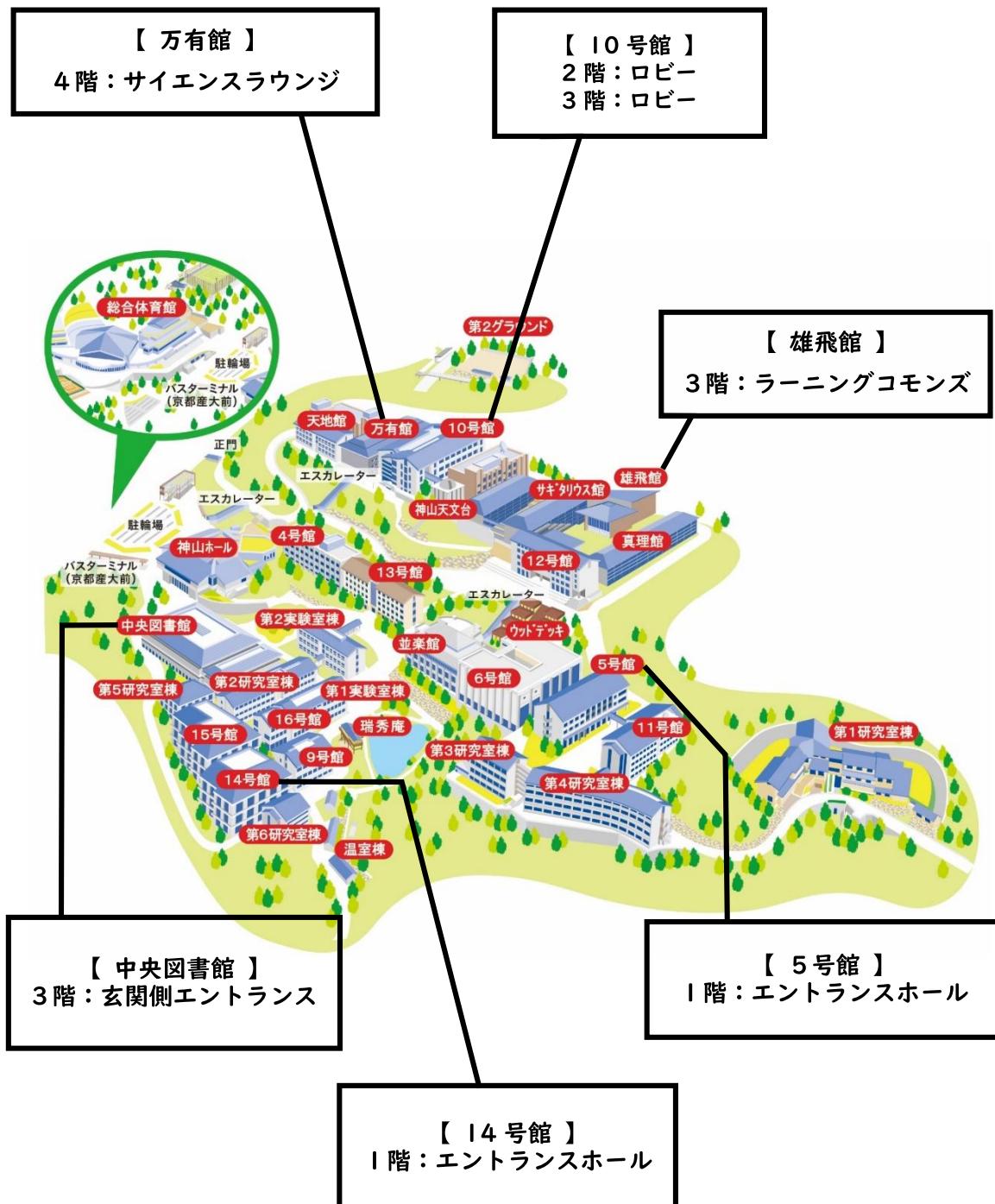
プリンタ手前の手差しトレイに印刷用紙をセットしてください。



ログイン後、プリンタのディスプレイ上に印刷に関する情報が表示されます。
印刷したいファイルを選択し、「スタート」を押して印刷を実行します。
実行すると、プリンタ下部の排紙トレイから印刷された用紙が出てきます。
終了したら、他の利用者が利用できるよう手差しトレイと排紙トレイ上の
用紙を速やかに取り除いてください。



(4) ロビープリンタ設置場所



2. 電源コンセントの利用

学内には電源コンセントが利用可能な教室があります。利用可能席数には限りがありますので、共用できるよう長時間の利用は避けてください。なお、利用中は席を離れないようにしてください。設置場所は、以下をご確認ください。

電源コンセントの設置場所

建物	階	コンセント設置場所	教室	建物	階	コンセント設置場所	教室
4号館	3	Innovationラウンジ		中央図書館	1	I3121メディア演習室	○
	4	Innovation HUB			1	パソコン室	○
5号館	2	5201教室	○	サギタリウス館	1	グローバルコモンズ	
	2	5202教室	○		2	S207教室	○
10号館	2	I0201教室	○		2	S208教室	○
	2	I0202教室	○		2	S214教室	○
	2	I0203教室	○		2	窓際テラス	
	2	I0204教室	○		3	窓際テラス	
	2	I0205教室	○		4	窓際テラス	
	2	I0206教室	○		2	食堂	
	3	I0301教室			3	ラーニングコモンズ	
	3	I0302教室	○		2	B210情報処理教室	○
	4	I0401教室	○		4	B407情報処理教室	○
	4	I0403教室	○		2	スチューデントコモンズ	
11号館	2	I1202教室	○	真理館	3	窓際テラス（東）	
	3	I1304教室	○		3	窓際テラス（西）	
	4	I1403教室	○		4	SR407教室	○
	4	I1408教室	○		4	窓際テラス（西）	
12号館	3	I2302教室	○	天地館	1	ラウンジカウンター	
	5	I2502教室	○		2	T205大教室	○
13号館	B1	I3B01教室（半円形）	○		4	T402大教室	○

※「教室（表中で教室の欄に「○」が付いた部屋）」以外は自由にご利用いただけます。

※曜日・時限によっては授業が実施されています。

授業が実施されていないことを確認の上、利用してください。

※メンテナンスやイベント等で利用できない場合もあります。

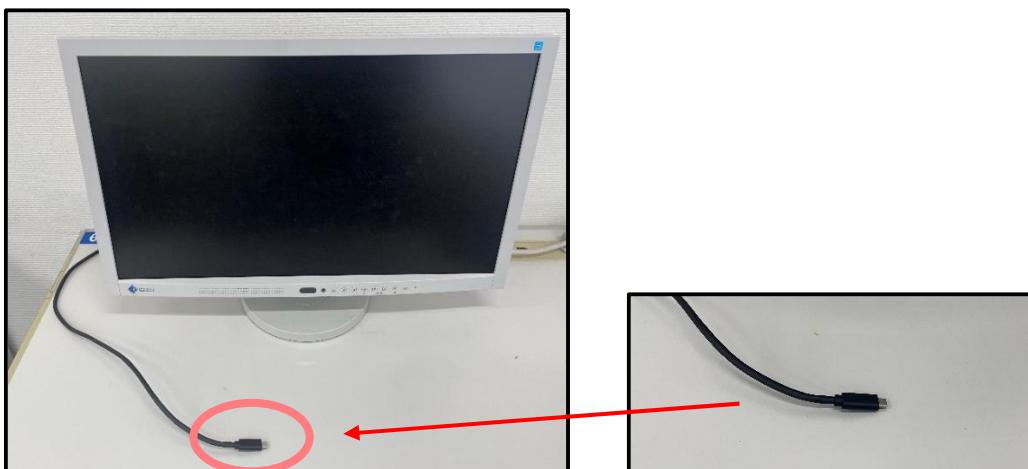
3. 拡張モニタの利用

10301 教室および図書館 107（旧：パソコン室）には拡張モニタが設置されています。本項では、Type-C ケーブルを使用した拡張モニタの接続方法と設定手順について説明します。（※設置している Type-C ケーブルで充電することはできませんので、ご注意ください。）

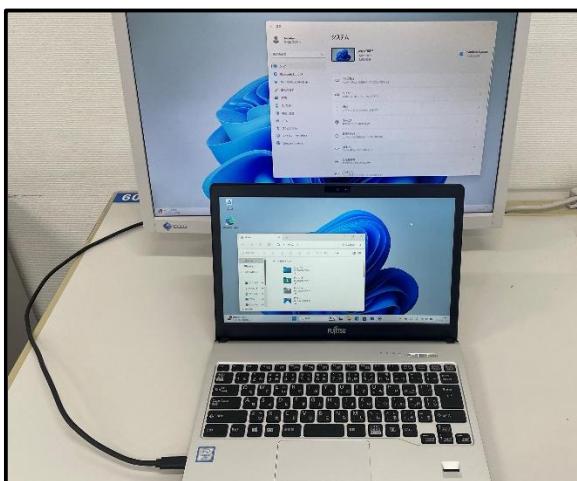
<利用方法>

I. 接続手順

PC またはノートパソコンの電源を入れ、拡張モニタから出ている Type-C ケーブルを PC の Type-C ポートに接続します。



正しく接続されると、ディスプレイに映像が表示されます。



ディスプレイに正しく映像が投影されない場合は、以下をご確認ください。

2. ディスプレイの設定（Windows の場合）

- ① ディスプレイ設定を開く
デスクトップ上で右クリックし、「ディスプレイ設定」を選択します。
- ② ディスプレイの認識を確認
「ディスプレイの配置」に接続した拡張ディスプレイが認識されていることを確認します。
- ③ 表示モードを選択
「表示画面を拡張する」を選択すると、デスクトップを広げて使用できます。
- ④ 適用して設定を完了
設定を変更したら「適用」をクリックし、「変更を維持する」を選択します。

3. ディスプレイの設定（Mac の場合）

- ① システム設定を開く
Apple メニューから「システム設定」を開き、「ディスプレイ」を選択します。
- ② ディスプレイを認識する
接続した拡張ディスプレイが認識されていることを確認します。
- ③ 表示モードを設定
「拡張ディスプレイ」を選択すると、作業領域を広げられます。
- ④ 設定を完了
設定が完了したらウィンドウを閉じます。

4. 補足事項

- ① ディスプレイに映像が表示されない場合
 - ・Type-C ケーブルがしっかりと接続されているか確認してください。
 - ・PC の別の Type-C ポートに接続してみてください。
 - ・PC を再起動してみてください。
 - ・モニタの電源が入っているか確認してみてください。
 - ・PC の Type-C ポートが映像出力（DisplayPort Alt Mode）に対応しているか確認してください。対応していない場合、拡張ディスプレイをご利用いただくことはできません。
- ② 画面の解像度が適切でない場合
 - ・ディスプレイ設定から適切な解像度を選択してください。

III. 情報センターサポート体制

情報処理システム・情報処理設備を利用中に「急に動かなくなった」「見たことがないメッセージが表示された」「印刷がうまくできない」といったトラブルや「この部分の操作方法がわからない」「この機械はどのように使うのだろう?」といった疑問点が出てくるかもしれません。そのような場合に備え、サポート体制を用意しています。状況に応じて、以下のサポートをご利用ください。

I 情報センターカウンター窓口「MiCS」

情報センターでは、京都産業大学の情報処理システム・情報処理設備に関する相談や問い合わせに対応するため、本学の学生スタッフ「計算機運用補助員（MiCS）」が常駐する相談窓口を設置しています。困ったときは10号館3階にある情報センターカウンターに連絡し、利用場所およびトラブルの状況を伝えて対応方法を確認してください。

・ MiCS の業務

① 情報処理システム・情報処理設備に関する質問対応

大学の情報処理システム・情報処理設備の利用に関する質問に対して、情報センター カウンターおよび内線電話、電子メールで対応を行います。

② 情報処理システム・情報処理設備に関するトラブル発生時の初期対応

大学の情報処理システム・情報処理設備利用時に起こったトラブルの原因調査や簡単な回復作業を行います。

・問い合わせ先

窓口：10号館3階 情報センターカウンター

電話：内線番号 2578

電子メールアドレス：mics-q@cc.kyoto-su.ac.jp

受付時間：（開講期間）平日 8:45～18:15 土曜 8:45～12:15
（学休期間）平日 8:45～16:30 土曜 8:45～12:15

※ 日曜・祝日や一斉休業中は受付をしておりません。

※ 利用時間に変更等が発生した場合は、その都度POSTでお知らせします。

2 Web サイト「コンピュータ環境の使い方」

情報センターでは、Web サイト「コンピュータ環境の使い方」を公開しています。この「コンピュータ環境の使い方」では本学の情報処理システムを利用する際の手引きや、各種サービスを利用する際に必要となる情報を提供しています。本書を理解した上で、「さらに詳しく知りたい！」「情報システムを活用したい！」という方はこの「コンピュータ環境の使い方」をご覧ください。

The screenshot shows the homepage of the 'Computer Environment Usage Guide'. It features a banner for 'Beginners Guide' and 'Guide for Teacher'. Below the banner, there are three informational boxes: one for new students, one for teachers, and one for staff. A red box highlights the 'Beginners Guide' button. At the bottom, there's a section titled '【重要】本学の認証がパスワードレスに対応しました！' with four buttons: '多要素認証' (highlighted with a green border), '設定', '再設定', and 'マニュアル'. A large red arrow points from the 'Beginners Guide' button down to the '多要素認証' button.

「初めてガイド」には本学の情報処理環境を初めて利用される方に必要な情報をまとめて掲載しています。これから本学の情報処理環境を利用されるにあたり、まずは「初めてガイド」に掲載されている内容を一通り確認しましょう。

The screenshot shows the 'First-time Guide' page. It has a header and a main content area with sections for '1. 入学前の方へ' and '1. 入学してから授業開始までの準備'. A small illustration of a person using a laptop is on the right. A red box highlights the 'はじめてガイド' button at the top left of the page.

「初めてガイド」は [こちらから](#)

The screenshot shows the 'Multi-factor Authentication' guide page. It has a header and a main content area with a '多要素認証' button. A red box highlights this button. Below it, there's a text block: '多要素認証に関する情報を掲載しています。マニュアル等を掲載していますので、参考に設定してください。'

IV. 教材・コンテンツ制作室

I 概要・利用時間

他の教室にはない、クリエイティブに特化した大型液晶タブレットや大判プリンタを利用することができます。例えば、高画質動画の書き出しができるPCやDTP制作に便利な作業スペースをはじめ、3Dモデリング・アニメーション・グラフィックデザインの必須アイテムに不可欠な専門ソフト(Adobe他)が充実しています。また、個人では小ロットで入手することが難しい、様々な種類の用紙を長尺ロール単位で取り揃えています。

環境/設備



- ▶ 液晶タブレット・スキャナー・ラミネーターなど
- ▶ 大判プリンタ・インクジェットプリンタ・レーザープリンタ
- ▶ Adobe・デザイン専門アプリ(Illustrator, Photoshop, Premiere他)
- ▶ 3Dモデリング・動画編集アプリ(用途に応じた各種データに変換可能)

利用事例



- ✿ 学会研究発表・神山祭などの大判ポスター出力
- ✿ 高度な画像処理やプロ仕様のエフェクト・音声加工
- ✿ クラブやサークル活動のWebツール制作
- ✿ デザイン誌や専門書の閲覧・フォントやイラスト素材の利用



利用時間：月～金 9:00～18:15

本学サイトの開室カレンダーをCHECK！



有料サービスは
16:30まで

定期試験中や学休期間は16:30に閉室します(有料サービスは15:00迄)
台風・大雪などの悪天候・機器のメンテナンスが生じた場合、その時点で
閉室することがあります。お知らせはPOSTを確認してください。



<https://www.kyoto-su.ac.jp/ccinfo/contents/>

2 利用できるアプリケーション

人気の Drawing ツールやグラフィックデザイン制作に便利な Adobe シリーズが揃っています。



CLIPSTUDIO
SAI etc..

そろそろ手描きからデジタル描きに移行したいアナタへ。
大きな液晶タブレットで自在に描いてみませんか。

プロで知らない人はいない、有名過ぎるアプリ。まずは
この 2 つを押さえておけば、アナタの将来性が広がります。

Illustrator
Photoshop



Premiere
Camtasia

今や、企業から自己紹介動画や編集を求められる時代。
スマホで撮影しただけの動画とはレベルが違います。

ホームページ作りたいけどコーディング出来ない人必見。
タグがわからなくても Web ページのデザインが可能です。

DreamWeaver
フリーアプリ etc..



CLIPSTUDIO
SAI etc..

3D モデリングや CG 動画を作りたいならコレ。幾何学的な
形状はもちろん、精巧なフィギュアなど、3D プリンタ専用
データ制作が可能です。



絵を描くのが苦手な人の救世主。
人物・背景・表情をドロップ &
ドラッグするだけであっと言う間に
ストーリー漫画が完成します。

コミ Po !
漫画ツール



他にもプロのアーティストやクリエイターが使用しているアプリケーション
を多数導入しており、その全てが無料で利用することができます。

※予告なしに導入しているアプリケーションを終了することができます。

3 利用できるハードウェア・機器

有料サービス(証紙)

大判プリンタ

月火木…紙ポスターの日
水金…布ポスターの日
インクジェットプリンタ
ラミネーター

室内貸出(無料)

デジタルビデオカメラ
専用 USB メモリ(128GB)
カメラ三脚(各種サイズ)
スキャナー専用 USB メモリ
マルチカードリーダー(2 機)
外付 HDD(2 台)
各種ケーブル(限定数)
IC レコーダー(1 台)

レーザープリンタ



室内機器利用(無料)

デザイン制作向 PC(Windows8 台)
22HD 液晶タブレット(2 台)
板タブレット(8 台)
ペン型マウス(全タブレットに設置)
Macbook(ノート 1 台)
スキャナー

その他利用(無料)

カッティング作業台(3 ケ所)
文房具(1M 定規・クラフトカッター等)
CD-R・DVD-R・Blu-ray
※教員用授業コンテンツのみ無料提供



レーザープリンタを利用するには
500 円(55 度数)・1,000 円(110 度数)
コピーカードが必要です⇒学内にて販売

印 刷(A3マテ)	片 面	両 面
モノクロ	1度数/枚	2度数/枚
カラー	5度数/枚	10度数/枚

ペン型マウス



繊細な指の筆圧を感じるペン型
マウスは用紙に描くように様々な
タッチの線画を描くことができます。液晶タブレット・板タブレット
でアナタもぜひ描き心地を体験
してみてください。



4 有料サービス

有料サービスは
16:30まで

定期試験・学休期間は 15:00 にクローズします

有料サービス利用の手順



印 刷	用 紙	L判・ハガキ	ハガキ超
モノクロ (単価)	写真用紙	10円/枚	50円/枚
	CD/DVD ラベル		10円/枚
カラー (単価)	写真用紙	30円/枚	100円/枚
	CD/DVD ラベル		30円/枚

用 紙	L判・ハガキ	
A0ロール (10cm単位)	厚手コート紙	50円/10cm
	光沢フォト紙	90円/10cm
B0ロール (@10cm単位)	厚手コート紙	60円/10cm
	光沢フォト紙	110円/10cm
布ロール (@10cm単位)	ソフトクロス	150円/10cm
用 途	A 4	A 3
ラミネート加工	20円/枚	30円/枚

月火木のみ
制作可能

水金のみ
制作可能

V.その他

京都産業大学インターネット利用に関するガイドライン

※令和7年4月1日時点

1.はじめに

インターネットは便利な道具であり、たくさんの利便性を持ち、様々な可能性を秘めています。大学生活や一般社会において、これをいかに使いこなすかは非常に重要な課題です。

インターネットを活用する上で、欠かせないことはルールの遵守です。便利だからと言って何でもして良い訳ではありません。パソコンやスマートフォンなどからネットワークを利用するにあたり、「京都産業大学ネットワークセキュリティ規程」および各種法令を遵守してください。京都産業大学ネットワークセキュリティ規程については、本学 Web ページ「コンピュータ環境の使い方(<https://www.kyoto-su.ac.jp/ccinfo/>)」内、「情報センター規程一覧」に掲載していますので、必ず確認してください。

このガイドラインでは、そのうち特に重要な項目について具体的に説明します。

なお、違反行為をした利用者については、本人に通知することなく、当該行為の停止、利用停止等の処置を行うことがあります。

2.法律・規則による遵守事項

インターネットの世界でも法律は適用されます。利用者が相互に権利を尊重し合い、ルールを守って気持ちよくネットワークを利用してください。

2. 1. 人権（人格権、プライバシー権、肖像権等）について

日本国憲法第3章第13条には「すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。」と定められており、民法第709条には「故意又は過失によって他人の権利又は法律上保護される利益を侵害した者は、これによって生じた損害を賠償する責任を負う。」と定められています。

当然のことですが、他人の悪口や個人情報、プライバシーを言いふらしてはいけません。これらの行為は他人の人権を侵害します。ブログや SNS などのネット上であっても同じことです。写真を SNS に載せる場合などでも、写り込んでいる人に、ネットに載せることに不都合がないか許可を求めることが必要です。

2. 2. 著作権について

著作権は、産業財産権と共に知的財産権に含まれる権利の一つです。「知的財産権」とは、知的な創作活動によって何かを創り出した人に対して付与される、「他人に無断で利用されない」といった権利です。著作権は、手続きを一切必要とせず、著作物が創られた時点で「自動的」に付与されることが、国際的なルールとなっています。

簡単に言えば、著作者の許可なしに著作物を複製したり、二次利用してはいけない、ということを定めています。

	著作権	…… 著作者の権利、著作隣接権
知的財産権	産業財産権	…… 特許権、実用新案権、意匠権、商標権
	その他	…… 回路配置利用権、育成者権、営業秘密等

身近な例では、次のような行為が著作権侵害となります。

- ・インターネットに不正に置かれたビデオや音楽等をダウンロードする行為
- ・著作権の存在するビデオや音楽等をコピーして人にあげる行為
- ・雑誌を立ち読みして、気に入ったページを写真に撮る行為
- ・二次利用が許可されていない画像を自分のブログに使う行為

著作権を侵害すると刑事罰（著作権法に定められた懲役や罰金）の他、民事訴訟による損害賠償請求を受ける可能性があります。

著作権には、許諾なしに複製を可能とする条件も定められています。私的利用に限って複製を認める条項（著作権法第30条）と、学校での教育現場に限って複製を認める条項（著作権法第35条）がありますが、何れも条件を拡大解釈しないよう注意してください。一言で言えば、著作者から訴えられるような利用の仕方をしてはいけません。引用（著作権法第32条）についても同様です。なお、学校の機材を用いて行う複製は私的利用とは認められません。

2. 3. 本学規程について

個人に発行されたユーザIDとパスワードは、それぞれが責任を持って管理する義務があります。ネットワーク上で何らかのトラブルが発生した場合は、それに用いられたユーザIDの所有者に責任が問われます。ユーザIDを人に貸す行為は認めていませんので、パスワードを他人に教えてはいけません。なお、どのような場合でも、大学がパスワードを尋ねることはできません。言葉巧みにパスワードを聞き出して悪用する事例がありますので注意してください。

また、本学のIDは教育・研究を目的として発行されています。教育研究の目的にそぐわない利用方法は慎んでください。例えば、学習に必要のない画像・音楽・動画ファイルを大学のサーバに保存することや、政治・宗教活動などを行ってはいけません。

自分の情報を自分で公開することは法律上禁じられていませんが、本学ネットワークセキュリティ規程では、不要なトラブルを避けるため、自己の情報をみだりに公開することを禁じています。ストーカー被害などに遭わないとめにも、不用意に情報を出さないようにしてください。

なお、スマートフォン等GPS付機器で撮影した写真には位置情報が埋め込まれている場合があります。自宅で撮影した写真をブログ等に掲載すると、その写真から自宅の位置が分かることになりますので、位置情報を削除してから掲載するなど、注意が必要です。

3. マナー、心得

インターネットは単なる道具・テクノロジーではなく、手紙や電話と同様に社会性をもった通信手段であり、一種の社会的空間です。文字のみのコミュニケーションもあり、相手の意図することを誤解したり、こちらの意図することが理解してもらえなかったりして、互いに不快な思いをすることがあります。この様なことを避けるためにも、マナーを身に付けて、全ての人が快適に利用できるように心掛けましょう。

3. 1. 名乗る

インターネットで電子メールの受送信や Web を介した問い合わせなどを行う際は、まず所属と本名を名乗りましょう。気心の知れた相手でない限り、それが礼儀です。

3. 2. インターネットは匿名ではない

必要に応じて、本名の代わりに匿名性のあるハンドル（ネーム）という別名を用いる場合があります。自分で考えたニックネームを本名の代わりに利用することで、ネットワーク上でプライバシーを守りながら活動を行うことができます。

しかし、しばしば匿名だからと無責任な発言がされることが見受けられます。「匿名でなければ情報発信できない」と思うような内容は発信してはいけません。高い人格を持ってインターネットを利用してください。

そして、一見、匿名性がありそうに見えるインターネットですが、大抵の場合、個人を特定することができます。警察が調べれば、いつどこのパソコンからアクセスしたかが分かりますし、ブログの書き込みや写真などに含まれるヒントを集めて解析することでも個人を特定することができます。

3. 3. インターネットへ発信した情報は取り消しができない

インターネット上の情報はどんどんコピーされます。検索サイトが取り込んだり、誰かがブログに引用したりする他、インターネット上の全てのデータを定期的に収拾しているサイトもあります。このため、一度ネット上に出した情報は取り消すことができないと考えてください。

3. 4. 文字だけではニュアンスは伝わらない

インターネット上の情報交換の多くは、文字によって行われます。文字だけでは互いの顔が見えないため、表現のニュアンスを意図したとおり伝えることができない、もしくは相手の持つ文化的背景が違うなどの要因から、誤解やトラブルが発生することがあります。

情報を発信する際は相手のことをよく考え、意図することが間違いない相手に伝わる内容であることを確認しましょう。

3. 5. 反社会的な情報を発信しない

「未成年だが酒を飲んだ」「高速道路で 150km 出した」など、反社会的な内容を発信すると、大勢からバッシングを受けるでしょう。たとえ冗談でもそのような内容を書き込むべきではありません。

3. 6. SNS は友達以外の人も見ている

SNS に書き込んだ内容は、世界中の誰もが見ることができます。たとえあなたが友達限定にしていても、友達の誰かがシェア（引用して発言）すると、その発言は制限なしに誰でも見ることができます。

「友達グループしか見ていない」、または「自分の発言なんて誰も見ていない」と思うのは大きな間違いです。ネットへの書き込みは、誰に見せても問題のない内容に留めましょう。

3. 7. 郷に入っては郷に従え

インターネットには独特の文化があります。例えば質問サイトでは、質問を行う際には既に同じ質問がされていないか調べてから行う、早く回答を貰おうとたくさんの掲示板にマルチポストしてはいけない、質問のタイトルには「質問」とだけ書いたりせずに何の質問かわかるようにする、などがあります。

これらの文化はサービス、サイト毎に少し違っていますので、新しいサービスを利用する際は、まずその雰囲気に慣れることから始め、マナーを学んでから本格的に利用しましょう。

3. 8. 情報を鵜呑みにしない

どのようなメディアにも言えることですが、メディアが発信する情報は正しいものばかりではありません。間違いや思い込みで誤った情報が書かれていることもありますし、情報操作を目的に、わざと事実と違うことを書いている場合もあります。特にインターネットは誰でも手軽に情報発信できるため、誤った情報が多く含まれます。

情報の真偽を見極める目が必要です。例えばステルスマーケティングと呼ばれる、消費者に気付かれないように宣伝する（サクラが個人の口コミを装ってある商品を褒めるなどの）行為があり、近年問題となっています。

重要な情報は、複数のメディア（ネット、新聞、雑誌、書籍、テレビ、聞き込みなど）を用いて、総合的に判断しましょう。

4. 安全対策

セキュリティの意識を持たずに入ernetを利用すると、自分自身または第三者が不利益を被る事件に巻き込まれてしまう場合があります。また、コンピュータウイルスなどに感染したコンピュータをそのまま利用してしまうことで、意図せずトラブルを拡大させてしまうことも考えられます。

必要な知識と意識を持って、全ての人が快適に利用できるように心掛けましょう。

なお、学内ネットワークで、自分のユーザ ID を知らない間に他人が使用しているのではないかという形跡がある場合や、ウイルス、マルウェアに感染した形跡がある場合は、速やかに情報センターに連絡してください。

4. 1. パスワード管理

昨今、新聞やTVなどのマスメディアでも報道されるように、ネットワークに不正侵入したり、他人のユーザ ID を不正に使用して混乱させたり、情報を不正に入手したりする人々がいます。ユーザ ID を不正に使用されないように最も単純で確実な方法は、自分のユーザ ID に適切なパス

ワードを設定することです。

パスワードを盗む手法の一つに「コンピュータを用いて総当たり順に試す」というものがあります。この攻撃では、短時間で効率よく解析するために、短い桁数から試す、数字だけの組み合わせから試す、辞書に載っている単語や個人情報を組み込んで試すといったことが行われます。従って、適切なパスワードは次のようなものになります。

- ・自分が知っているオリジナルの文字列である
- ・英大文字・英小文字・数字・記号を全て含んでいる
- ・長さが10文字以上である
- ・書き留める必要がなく覚えることができる
- ・誰かに覗かれても覚えられないように、素早くタイプすることができる

また、インターネット上のサービスを利用すると、そのサービス専用のユーザIDの作成を求められることが多い、サービスの利用に応じて管理するユーザIDが増えます。その際、全て同じIDとパスワードに設定した場合、管理は簡単になりますが、どこか一箇所でもパスワードが漏えいしてしまった場合、他の全てのサービスに不正アクセスされかねないリスクが伴いますので、それぞれ違うパスワードを付けてください。

万が一、パスワードが漏洩したとしても、それに気付くことは困難です。これに対しては、パスワードを定期的に変更することで被害を最小限に留めることができます。

4. 2. パソコンのセキュリティ対策

現在のコンピュータウイルスには、犯罪者が遠隔操作をするために作成されているものが増えています。犯罪者は迷惑メールの代理送信や、特定サイトへの攻撃代理などを請け負うアンダーグラウンドビジネスに利用するため、世界中に遠隔操作ができるパソコンを増やしています。金儲けができるので、その足がかりとなるウイルスはプロを雇って、極めて高度なプログラムテクニックを用いて作成されています。

ウイルスは、感染すると犯罪者からの指示があるまで何もせず潜伏します。犯罪者からの指示により実行される内容は、大抵の場合他のサイトへの攻撃であり、感染したパソコン自体には何も破壊活動を行わないため、感染に気付くことは極めて困難です。警察から、「あなたのパソコンから不正アクセスが行われた」と指摘され、初めて気付くことになるでしょう。平成24年に起きた、遠隔操作による掲示板書き込みの冤罪逮捕事件は正にこのパターンであり、誰もが冤罪逮捕される危険があります。

また、ウイルスの種類が爆発的に増えており、ウイルス対策ソフトをインストールしていても、全てのウイルスを検知することはできません。特に「標的型攻撃」と呼ばれる特定の組織を狙って配布されるウイルスは、一般に出回らないためにウイルス対策ソフトのメーカーが標本を採取することができず、パターン検出での対策が取れません。

かなり絶望的ともいえる現状ですが、ウイルスが感染する経路はだいたい決まっています。次にあげる対策を行うことでウイルス感染の可能性をかなり下げることができますので、必ず実行してください。なお、セキュリティ更新がされなくなった古いOSやソフトウェアは危険ですのでネットワークにつないでいけません。

(1) OS のセキュリティを最新にする

ウイルスは、OS の脆弱性について感染します。発見された脆弱性は、Microsoft や Apple など、OS メーカーから提供されるセキュリティパッチを適用することで解消します。常に最新の状態に保ちましょう。

(2) アプリケーションソフトのセキュリティを最新にする

Word や Excel、PDF などの文書ファイルに感染するウイルスがあります。これらは Word や Excel、Adobe Reader など、アプリケーションソフトの脆弱性について感染を広げます。発見された脆弱性はメーカーから提供されるセキュリティパッチを適用することで解消します。常に最新の状態に保ちましょう。

(3) ブラウザのバージョンを最新にする

ウイルスは、ブラウザの脆弱性について感染します。発見された脆弱性は、ブラウザメーカーやプラグインソフトメーカーから提供されるセキュリティパッチを適用することで解消します。常に最新の状態に保ちましょう。ウイルス感染を目的に開設されている Web ページもありますので、怪しいサイトに近寄らないことも大切です。

(4) ウィルス対策ソフトをインストールする

全てのウイルスは止められませんが、一般的に出回っているかなりのウイルスを防いでくれます。ウィルス対策ソフトのふりをしたウイルス付き偽ソフトも存在するので、信頼のおけるものを使ってください。ウィルス対策ソフトはパターンファイルと呼ばれる、ウィルス判定データを最新にしておかないと役に立ちません。パソコン購入時に付属するウィルス対策ソフトは大抵の場合ライセンス期限付きです。期限が切れるとパターンファイルが更新されなくなります。注意してください。

(5) USB メモリ等の自動実行を止める

USB メモリや DVD を挿入すると自動的に再生を始めたり、プログラムを起動する仕組みを悪用してウイルス感染プログラムを自動実行させて繁殖するウイルスがあります。少し不便になりますが、自動実行は停止させておく方が無難です。

(6) 自宅のインターネット接続には Wi-Fi ルーター（無線 LAN ルーター）を用いる

1台しかパソコンを使わない場合は、Wi-Fi ルーターを用いずともインターネットに接続することができますが、この接続方法はインターネットからパソコンに直接アクセスが可能な状態であり、一瞬で不正アクセスを許してしまう可能性があります。Wi-Fi ルーターを間に挟むことで、インターネットからパソコンへの直接アクセスが不可能になります。

(7) P2P ファイル共有システム等、不正な経路で手に入れたプログラムを実行しない

P2P ファイル共有システムや Web サイトなどで、高価なソフトやゲームソフトを不正に無料配布している違法行為があります。これを手に入れて使いたいと思う心理を利用して、犯罪者は正規ソフトに見せかけてウイルスを配布しています。P2P ファイル共有システムなどで配布されているソフトはほとんどがウイルス付きだと思ってよいくらい、ウイルス感染の温床とな

っています。なお、この理由により、本学では P2P ファイル共有ソフトの利用を禁じています。

(8) メールの添付ファイルに気をつける

迷惑メールについてくる添付ファイルだけでなく、友人から届いたメールであっても、友人のパソコンに感染したウイルスが、友人のふりをしてメールを送ってきておりすることがあります。

4. 3. スマートフォン等のセキュリティ対策

スマートフォンの中身はパソコンと同じです。パソコンのウイルス対策と同様の対策がスマートフォンにも必要です。料金を徴収する仕組みや連絡先、メールなどの情報がある分、パソコンより危険だともいえます。

iPhone 系は比較的安全な仕組みがありますが、Android 系はウイルスが入り込みやすい仕組みになっています。Android でアプリをインストールする際には、アクセスする情報の確認画面が表示されます。単なる電卓アプリなのに連絡帳にアクセスを求めていたりなど、不審なアプリはインストールしてはいけません。

4. 4. クラウドサービスの利用に関する注意

Dropbox や Evernote など、クラウドにデータを預けるサービスがありますが、これらの物理的な保存先はインターネットの向こう側にある、それぞれの会社が保有するサーバです。大抵の場合、十分なセキュリティ監視の下に運用されていると思われますが、システムトラブルによる情報漏えい、倒産による情報売却など、想定外の事案により情報が流出するリスクがあります。G-mail などのメールサービスも同様です。

個人情報や機密情報が含まれるデータを取り扱う場合は、充分に注意してください。

4. 5. 防犯知識

インターネットを利用した犯罪が増加しています。特に近年は、詐欺の手口も非常に巧妙化しており、気が付かない間に被害に遭うケースも少なくありません。被害を未然に防ぐため、次に代表的な犯罪の手法を挙げますので参考にしてください。また、いつも最新の情報を収集して、防犯対策をしてください。なお、これらの勧誘は、悪質な業者などが不特定多数に電子メールを発信しているものがほとんどです。もし、この様な電子メールが届いた場合、たまたまあなたに届いた程度と捉えて、無視することがよいでしょう。電子メールに返信したり、電話で連絡することは、更に個人情報を相手に与え、事態が悪化することが考えられますので注意してください。

もし、犯罪の事例に遭遇した場合や犯罪に巻き込まれてしまった場合は、速やかに大学や警察、消費者センターなどに相談してください。

(1) フィッシング (phishing)

主に金融機関などを装って電子メールを送信し、偽の Web サイトに誘導して暗証番号やクレジットカード番号などの個人情報をだまし取る詐欺です。金融機関へは、メールに書かれた URL に直接アクセスせず、普段から Bookmark (お気に入り登録) している信頼できる URL からアクセスするなどの手法が有効です。

(2) 架空請求

主にアダルトサイトなどを名乗って架空の利用料金を請求する電子メールを送信し、金銭を振り込ませる詐欺です。無視することが一番です。例外として、裁判所から特別送達（原則手渡し）で送られてくる「支払督促」などは対応が必要ですが、支払督促を装った郵送物という手口もあるようです。

(3) ワンクリック詐欺

Web サイトでクリックした拍子に、「会員登録を受け付けました」などと表示して金銭を請求する詐欺です。契約は双方の合意が必要であり、無関係のボタンをクリックしただけで一方的に契約が成立することはありません。無視することが一番です。

(4) その他

インターネットでも現実社会と同様に、甘い言葉や法律的な難しい言葉で巧みに金銭を奪い取ろうとする悪徳業者や犯罪者がいます。

世の中うまい話はありません。本当にうまい話があれば、それは人に教えず自分で実施することでしょう。少額の出資で多額の利益が出るように思わせる「ネズミ講」や「マルチ商法」など、騙されないように充分に注意してください。

5. 常に最新のセキュリティ情報を

セキュリティ事案は対策が取られれば、新たな手口が生まれます。最新の攻撃手口を知ることは、トラブルに巻き込まれないために有効です。次のような情報サイトを利用して、定期的に調べるとよいでしょう。(※令和7年3月1日時点の情報です。)

■ 本学 moodle 上「INFOSS 情報倫理」

<https://cclms.kyoto-su.ac.jp/>

本学では、1年次生に情報倫理教育を実施しており、e-Learning 教材「INFOSS 情報倫理」を提供しています。内容は事例を中心に毎年更新されていますので、2年次生以上の人も毎年再確認するとよいでしょう。

■ 総務省「情報通信白書」

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/>

■ 総務省「国民のためのサイバーセキュリティサイト」

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/cybersecurity/kokumin/intro/intro.html

■ NISC 内閣サイバーセキュリティセンター

「みんなで使おうサイバーセキュリティ・ポータルサイト」

<https://www.nisc.go.jp/security-site/>

■ 日本ネットワークセキュリティ協会 (JNSA)

<https://www.jnsa.org/>

■ 警察庁「サイバー警察局」

<https://www.npa.go.jp/bureau/cyber/index.html>

■ 独立行政法人 情報処理推進機構（IPA） 「情報セキュリティ」

<https://www.ipa.go.jp/security/net-anzen/index.html>

■ 独立行政法人 情報処理推進機構（IPA） 「ここからセキュリティ」

<https://www.ipa.go.jp/security/kokokara/quiz/index.html>

■ 一般社団法人 JPCERT コーディネーションセンター（JPCERT/CC）

<https://www.jpcert.or.jp/>

■ 独立行政法人 国民生活センター 「インターネットトラブル」

http://www.kokusen.go.jp/soudan_now/data/internet.html

■ ウイルス対策ソフトメーカー各社

・ Symantec (シマンテック)

<https://licensecounter.jp/symantec/>

・ McAfee (マカフィー)

<https://www.mcafee.com/ja-jp/index.html>

・ トレンドマイクロ

https://www.trendmicro.com/ja_jp/forHome.html

・ norton (ノートン)

<https://jp.norton.com/>

6. 免責

本学におけるネットワークの利用は、基本的に自己の責任に基づくものとし、次の事項について大学は責任を負いません。

- (1) 天災やテロ等の不慮の事故、システム管理上の予測できない事故によるネットワークの停止やデータの損失
- (2) 本学のインターネット接続サービスや利用者が提供するサービス、またはそれらを通じて他のネットワークサービスを利用することで発生した一切の損害

学校法人京都産業大学ネットワークセキュリティ委員会



発行：京都産業大学 情報センター
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山
e-mail : info-cc@cc.kyoto-su.ac.jp
TEL : 075-705-1483